

令和 8 (2026) 年度  
講 義 概 要



滋賀県堅田看護専門学校

〒520-0232 滋賀県大津市真野一丁目 12 番 30 号

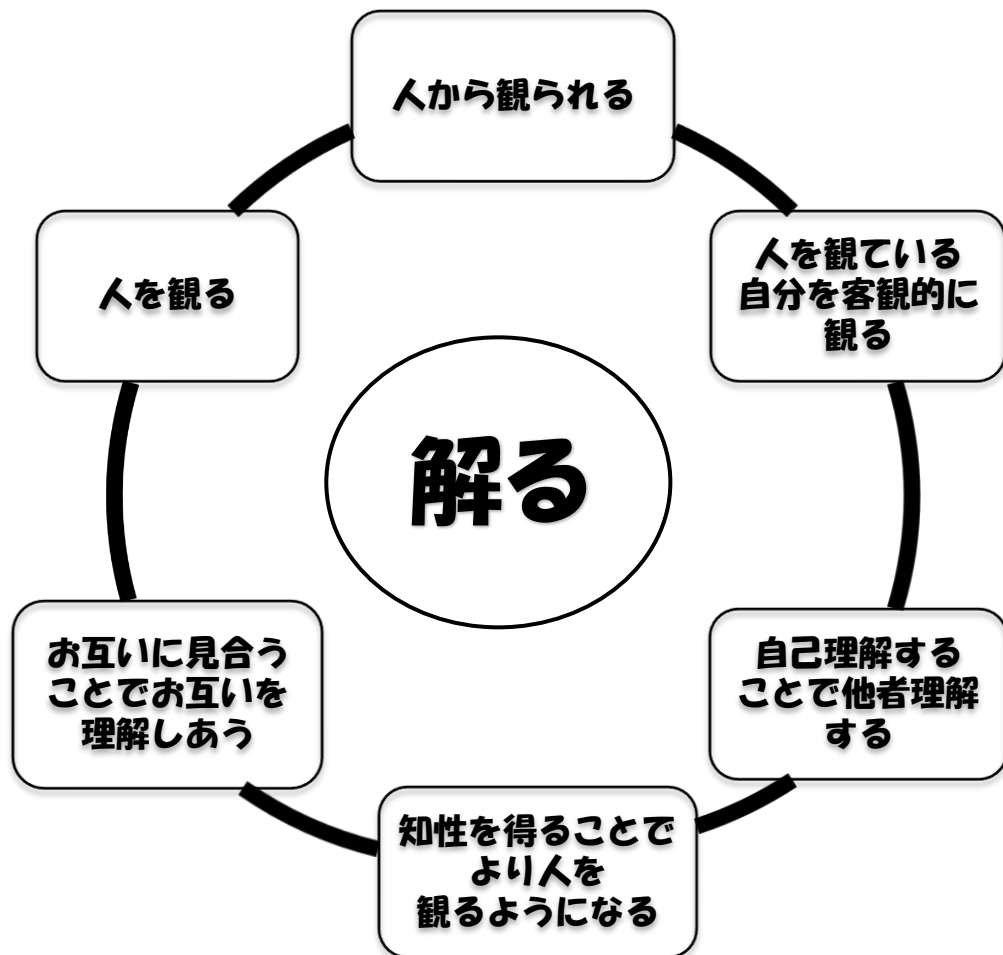
Tel(077)573-8545 / Fax(077)573-8726

# 目 次

教育理念・教育目標	1
主要概念	2
ディプロマ・ポリシー及び年次到達目標	3
教育課程の構造図	4
カリキュラムマップ	5
授業科目・履修年次・履修時期・履修条件	
2024年度以降入学生用	6
2023年度以前入学生用	8
基礎分野	10
科学的思考の基盤	11
人間と生活社会の理解	17
専門基礎分野	25
人体の構造と機能	26
疾病の成り立ちと回復の促進	31
健康支援と社会保障制度	42
専門分野	46
基礎看護学	49
成人・老年看護学	62
小児看護学	72
母性看護学	77
精神看護学	82
地域・在宅看護論	87
発達段階と健康状態別看護	96
看護の統合と実践	103

## 教育理念

滋賀県私立病院協会初代会長、加藤 明の教えである「観る 観られる 解る これこそ看護の神髄」を本校の教育理念とし、豊かな人間性と知性を育むとともに、地域社会の保健・医療・福祉の発展に貢献する人材の育成を目的とする。



## 教育目標

1. 尊厳ある命と人格を尊重する態度を養う。
2. 豊かな感性を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的な能力を養う。
4. 保健・医療・福祉におけるチームの一員として、看護の役割を果たす能力を養う。
5. 看護を探究する態度を養う。

## 主要概念

### 人間

- ・人間は身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに統合された全人的な存在である。
- ・人間は生まれながらにして自由平等であり基本的人権を有し、尊厳が護らなければならない。
- ・人間は、生から死まで成長発達しながら自己実現に向かって生きている存在である。
- ・人間は基本的ニードを有しており、そのニードがその人の行動を起こす力となり、自己実現をめざしている。
- ・人間は胎生期から老年期まで環境との相互作用をもち絶えず変化し成長発達する。

### 環境

- ・環境は常に変化するものである。
- ・環境と人間は、相互作用し変化するものである。
- ・環境は内的環境（恒常性）・外的環境（自然環境・社会環境）の統合である。
- ・環境とは人間を取り巻くすべてのもの、また、人間も環境の一部である。

### 健康

- ・健康は身体的、精神的、社会的・スピリチュアルに調和のとれた存在である。
- ・健康は環境に影響を受け流動的に絶えず変化し、常に安寧を図ろうとしている。
- ・健康状態は最良の状態から死に至るまでの連続的な段階がある。
- ・健康は人間が生きていく上での基本的権利であり、誰もが望む状態である。
- ・健康には主観的健康と客観的健康がある。
- ・健康とは人間がその人らしくよりよく生きるための手段である。

### 看護

- ・看護はあらゆる成長・発達段階及び健康レベルにある個人や集団を対象とする。
- ・看護は人間対人間の関わりを大切にし、対象に関心を寄せることから始まる。
- ・看護は科学的根拠に基づいた知識や技術をもって、その人に心を添わせながら、その人が持てる力を最大限に引き出していくものである。
- ・看護は社会の変化に伴う多様なニーズに対応する。
- ・看護は、その人がその人らしくあるように支え、健康の保持・増進・回復、そして生と死に関わることである。
- ・看護は対象のもつ健康上の問題をアセスメントし問題解決する。
- ・看護とは生命の尊厳と人間愛を基盤とするものである。
- ・看護は対象のニードの充足を支援する。
- ・看護は倫理的判断力に基づいた専門的知識と技術と心をあわせもつアートである。
- ・看護は、専門職として独自の機能を有し、保健・医療・福祉チームの中で仲介、調整の役割を担うものである。

### 教育

- ・教育とは学習者の可能性を引き出し、その可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていけるように働きかけることである。
- ・教育とは学習者が目標に向かい、学習に取り組めるよう指し導き働きかけることである。
- ・教育とは、知識・技術・態度を教え、育むことである。
- ・教育は学習者の主体的学習能力を育てるとともに、成長過程において行動の変容を促す。
- ・教育は明確な目的をもち、意図的に学習者に働きかけることである。

## ディプロマ・ポリシー及び年次到達目標

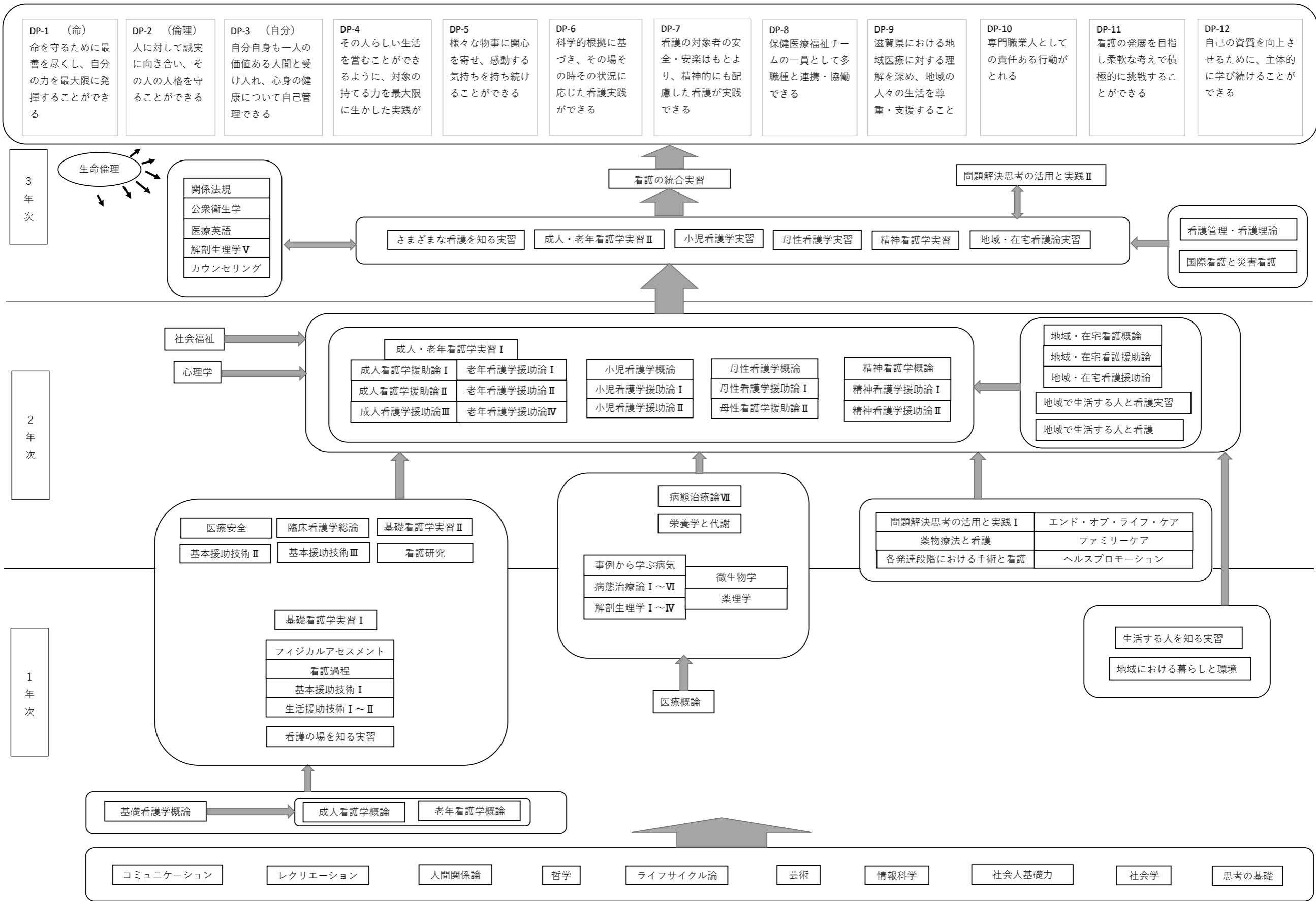
教育目標	DP	1年次	2年次	3年次
尊敬ある命と人格を尊重する態度を養う	DP-1 命を守るために最善を尽くし、自分の力を最大限に発揮することができる	・命の大切さを理解できる	・命を守るための知識、技術を学ぶことができる	・命を守るための行動をとることができる
	DP-2 人に対して誠実に向き合い、その人の人格をまもることができる	・人の話を聴くことができる ・他者に関心を持ち、思いやる心の大切さと関係作りの必要性を理解することができる ・倫理綱領に基づいた態度を考えることができる	・人の話を傾聴し考えることができる ・他者に関心を持ち、思いやることができ、関係づくりの方法を考えることができる ・倫理綱領を理解し実践を通して自分の考えを述べることができる。	・人のことを考えた行動をとることができる ・他者に関心を持ち、思いやることができ、関係を築くことができる ・倫理考慮に基づいた態度を身につけることができる
	DP-3 自分自身も一人の価値ある人間と受け入れ、心身の健康について自己管理できる	・「人間」「こころ」とは何かを考え、自分への理解を深めることができる ・自分の発達段階や課題を理解することができる ・規則正しい生活の必要性を理解することができる ・自己を見つめ、自己の傾向について知り、感情をコントロールする必要性が理解できる	・目標に向かって努力し、達成感を実感することができる ・規則正しい生活を行い、学習や睡眠と休息について計画的に考え実行することができる ・自己を理解し、感情をコントロールできる	・自分を認め役割を果たすことができる ・規則正しい生活を継続して行い、心身の健康を保つことができる
	DP-4 その人らしい生活を営むことができるように、対象の持てる力を最大限に生かした実践ができる	・人間は個別的な存在であることを理解できる。 ・他者理解を深め、より良い人間関係を築く方法が解る。	・その人らしい生活を理解し、対象の持てる力について考えることができる。 ・対象に合った看護の役割や方法を考え、理解することができる。	・対象の思いや考えを尊重し、より良い方法を考えた上で、看護の実践ができる
豊かな感性を養う	DP-5 様々な物事に興味関心を持ち、感動する気持ちを持ち続けることができる	・様々な事に興味関心が持てる ・感じたこと、考えたことを表現できる ・積極的に体験できる	・人間の喜びや悲しみを感じ取る事ができる ・他者の思いを傾聴し、自己の思いや考えを理解できるように表現できる ・色々な角度から物事を考える事ができる	・他者理解を深め、多様な価値観を理解し、より良い関係を築ける ・対象の状況に応じたコミュニケーションを実践できる ・柔軟な発想で行動できる
科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的な能力を養う	DP-6 科学的根拠に基づき、その場その時その状況に応じた看護実践ができる	・根拠や理論に基づいた考え方ができる ・人体の構造と生理機能を理解できる ・健康障害が起こるメカニズムが理解できる ・根拠に基づく基本的技術が習得できる ・事実をありのままに伝える事ができる ・看護の場、環境が理解できる	・健康段階や発達段階に応じた看護が理解できる ・状況に応じた優先順位を考える事ができる	・その場その時その状況に応じた看護実践を根拠を持って考え、実践できる
	DP-7 看護の対象者の安全・安楽はもとより、精神的にも配慮した看護が実践できる	・基礎的な看護技術を安全安楽に行うことができる	・対象にとって安全安楽な看護を理解する事ができる ・精神的な安寧について考える事ができる	・対象にとって安全安楽な看護を実践し、精神的にも対象を支える事ができる
保健医療福祉におけるチームの一員として、看護の役割を果たす能力を養う	DP-8 保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働できる	・様々な職種の役割を理解することができる ・リーダーシップ、メンバーシップの役割を理解し行動できる	・健康や障害に応じた社会資源の基礎的知識を理解する事ができる ・保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解することができる ・様々な場面でリーダーシップ、メンバーシップを取り、連携する事ができる	・様々な場面でリーダーシップ、メンバーシップを取り、連携し協働する事ができる ・保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を実践することができる
	DP-9 滋賀県における地域医療に対する理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる	・地域の人々の生活を理解することができる ・地域医療とは何かを知ることができる ・滋賀県の医療現状を知ることができる	・地域の活動に積極的に参加できる ・地域住民の保健医療福祉に対するニーズについて理解し必要な支援方法を考えることができる	・地域の人々の生活を尊重した看護実践ができる
	DP-10 専門職業人としての責任ある行動がとれる	・自己の役割や課題を最後まで責任をもって行うことができる ・看護学生としての心構えや態度が理解できる ・看護師の役割や責任とは何かを学ぶことができる ・看護師に対するニーズを知ることができる	・看護師に対するニーズを理解し責任ある行動とは何かを考える事ができる ・看護を取り巻く法律を学ぶことができる	・看護実践者としての自覚と責任を持った行動がとれる
看護を探究する態度を養う	DP-11 看護の発展を目指し柔軟な考え方で積極的に挑戦することができる	・看護について広い視野をもって考えることができる ・看護の変遷を理解することができる	・看護の役割や人との関りについて、柔軟な発想で考えることができる ・自己の看護を探究し挑戦できる	・積極的に看護を探究し挑戦し続けることができる ・看護について自己研鑽し続けることができる
	DP-12 自己の資質を向上させるために、主体的に学び続けることができる	・学習方法を理解することができる ・自己を振り返り課題を理解することができる ・計画性をもって学ぶことができる	・学習方法を確立することができる ・自己の課題に取り組むことができる ・計画性をもって継続的に学ぶことができる	・自己の課題を解決する能力を身につけることができる ・自己研鑽し続けることができる

## 教育課程の構造図

専門分野	看護の統合と実践	医療安全 問題解決思考の活用と実践Ⅱ 国際看護と災害看護 臨地実習
	発達段階と健康状態別看護	問題解決思考の活用と実践Ⅰ 薬物療法と看護 各発達段階における手術と看護 エンド・オブ・ライフ・ケア ファミリーケア ヘルスプロモーション
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 地域における暮らしと環境 地域で生活する人と看護 臨地実習
	成人・老年看護学	成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ～Ⅳ 老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 臨地実習
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 臨地実習
	母性看護学	母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 臨地実習
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 臨地実習
	基礎看護学	基礎看護学概論 看護管理・看護理論 看護研究 基本援助技術Ⅰ～Ⅲ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ フィジカルアセスメント 看護過程 臨床看護学総論 臨地実習

専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ～Ⅴ 病態治療論Ⅰ～Ⅶ 医療概論	事例から学ぶ病気 栄養学と代謝 公衆衛生学	薬理学 微生物学 社会福祉 関係法規
--------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------

基礎分野	思考の基礎 コミュニケーション 情報科学 ライフサイクル論 人間関係論	哲学 社会人基礎力 社会学 芸術	心理学 カウンセリング 医療英語 生命倫理 レクリエーション
------	---	---------------------------	--



カリキュラムマップ

## 授業科目・履修年次・履修時期・履修条件（学則第8条第2項）

2024年度以降入学生用

教育内容	授業科目	単位	時間数	履修年次・履修時期						履修条件（以下の科目を履修していることが必要）	
				1年次		2年次		3年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の基礎	思考の基礎	1	30							
		哲学	1	15							
		心理学	1	30							
		コミュニケーション	1	30							
		カウンセリング	1	30							
		情報科学	1	30							
	人間と生活社会の理解	社会人基礎力	1	15							
		医療英語	1	30							
		ライフサイクル論	1	15							
		社会学	1	30							
		生命倫理	1	30							
		人間関係論	1	30							
		芸術	1	30							
		レクリエーション	1	15							
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（人体の構造・生命現象の基本・免疫）	1	30							
		解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）	1	30							
		解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器）	1	30							
		解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）	1	30							
		解剖生理学Ⅴ	1	30							
	疾病の成り立ちと回復の促進	事例から学ぶ病気	1	15							
		病態治療論Ⅰ（総論・血液）	1	30							
		病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）	1	30							
		病態治療論Ⅲ（消化器および外科疾患・腎泌尿器）	1	30							
		病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）	1	30							
		病態治療論Ⅴ（運動器・脳神経）	1	30							
		病態治療論Ⅵ（感覚器）	1	30							
		病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）	1	15							
		栄養学と代謝	1	30							
微生物学		1	30								
薬理学	1	30									
社会健康支援と保障制度	医療概論	1	15								
	公衆衛生学	1	30								
	社会福祉	2	30								
	関係法規	2	30								
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30							
		看護管理・看護理論	1	30							
		看護研究	1	30							
		基本援助技術Ⅰ	1	30							
		基本援助技術Ⅱ	1	30							
		基本援助技術Ⅲ	1	30							
		生活援助技術Ⅰ	1	30							
		生活援助技術Ⅱ	1	30							
		フィジカルアセスメント	1	30							
		看護過程	1	30							
		臨床看護学総論	1	15							
		看護の場を知る実習	1	30							
		基礎看護学実習Ⅰ	2	60							
		基礎看護学実習Ⅱ	2	60							

教育内容	授業科目	単位	時間数	履修年次・履修時期						履修条件 (以下の科目を履修していることが必要)
				1年次		2年次		3年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
成人・老年看護学	成人看護学概論	1	30							
	成人看護学援助論Ⅰ(呼吸器・循環器)	1	30							
	成人看護学援助論Ⅱ(腎泌尿器・内分泌代謝)	1	30							
	成人看護学援助論Ⅲ(脳神経・運動器)	1	30							
	成人看護学援助論Ⅳ(消化器・血液・造血器・免疫アレルギー)	1	30							
	老年看護学概論	1	30							
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30							
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30							
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80							基礎看護学実習Ⅱ 地域で生活する人と看護実習
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 成人看護学概論 老年看護学概論 成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣ 老年看護学援助論ⅠⅡ 成人・老年看護学実習Ⅰ
さまざまな看護を知る実習	1	40							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 成人看護学概論 老年看護学概論 成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣ 老年看護学援助論ⅠⅡ 成人・老年看護学実習Ⅰ	
小児看護学	小児看護学概論	1	30							
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30							
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30							
	小児看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 地域で生活する人と看護実習 小児看護学概論 小児看護学援助論ⅠⅡ
母性看護学	母性看護学概論	1	30							
	母性看護学援助論Ⅰ	1	30							
	母性看護学援助論Ⅱ	1	30							
	母性看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 地域で生活する人と看護実習 母性看護学概論 母性看護学援助論ⅠⅡ
精神看護学	精神看護学概論	1	30							
	精神看護学援助論Ⅰ	1	30							
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30							
	精神看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 地域で生活する人と看護実習 精神看護学概論 精神看護学援助論ⅠⅡ
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	30							
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30							
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30							
	地域における暮らしと環境	1	30							
	地域で生活する人と看護	1	30							
	生活する人を知る実習	1	30							
	地域で生活する人と看護実習	2	60							看護の場を知る実習 生活する人を知る実習 基礎看護学実習Ⅱ
	地域・在宅看護論実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧ 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論ⅠⅡ 地域で生活する人と看護実習
健康発達段階と看護	問題解決思考の活用と実践Ⅰ	1	30							
	薬物療法と看護	1	30							
	各発達段階における手術と看護	1	30							
	エンド・オブ・ライフ・ケア	1	30							
	ファミリーケア	1	30							
	ヘルスプロモーション	1	30							
	統合看護の実践	1	30							
統合看護の実践	医療安全	1	30							
	問題解決思考の活用と実践Ⅱ	2	45							
	国際看護と災害看護	1	30							
	看護の統合実習	2	80							全ての実習
合計		102	3015							

\*履修時期(前期・後期)については変更になる場合があります

## 授業科目・履修年次・履修時期・履修条件（学則第8条第2項）

2023年度以前入学生用

教育内容	授業科目	単位	時間数	履修年次・履修時期						履修条件（以下の科目を履修していることが必要）	
				1年次		2年次		3年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の基礎	思考の基礎	1	30							
		哲学	1	15							
		心理学	1	30							
		コミュニケーション	1	30							
		カウンセリング	1	30							
		情報科学	1	30							
	人間と生活社会の理解	社会人基礎力	1	15							
		医療英語	1	30							
		ライフサイクル論	1	15							
		社会学	1	30							
		生命倫理	1	30							
		人間関係論	1	30							
		芸術	1	30							
		レクリエーション	1	15							
	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（人体の構造・生命現象の基本・免疫）	1	30						
解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）			1	30							
解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖）			1	30							
解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）			1	30							
解剖生理学Ⅴ			1	30							
疾病の成り立ちと回復の促進		事例から学ぶ病気	1	15							
		病態治療論Ⅰ（総論・血液）	1	30							
		病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）	1	30							
		病態治療論Ⅲ（消化器及び外科疾患・腎・泌尿器）	1	30							
		病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）	1	30							
		病態治療論Ⅴ（運動器・脳神経）	1	30							
		病態治療論Ⅵ（感覚器）	1	30							
		病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）	1	15							
		栄養学と代謝	1	30							
		微生物学	1	30							
薬理学	1	30									
社会健康支援と関係法規	医療概論	1	15								
	公衆衛生学	1	30								
	社会福祉	2	30								
	関係法規	2	30								
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30							
		看護研究	1	30							
		基本援助技術Ⅰ	1	30							
		基本援助技術Ⅱ	1	30							
		基本援助技術Ⅲ	1	30							
		生活援助技術Ⅰ	1	30							
		生活援助技術Ⅱ	1	30							
		フィジカルアセスメント	1	30							
		看護過程	1	30							
		看護管理・看護理論	1	30							
		臨床看護学総論	1	15							
		看護の場を知る実習	1	30							
		基礎看護学実習Ⅰ	2	60							
		基礎看護学実習Ⅱ	2	60							

教育内容	授業科目	単位	時間数	履修年次・履修時期						履修条件（以下の科目を履修していることが必要）
				1年次		2年次		3年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
成人・老年看護学	成人看護学概論	1	30							
	成人看護学援助論Ⅰ（呼吸器・循環器）	1	30							
	成人看護学援助論Ⅱ（腎泌尿器・内分泌代謝）	1	30							
	成人看護学援助論Ⅲ（脳神経・運動器）	1	30							
	成人看護学援助論Ⅳ（消化器・血液・泌尿器・免疫アレルギー）	1	30							
	老年看護学概論	1	30							
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30							
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30							
	さまざまな看護を知る実習	1	40							
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80							看護の場を知る実習 生活する人を知る実習 基礎看護学実習ⅠⅡ
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 成人看護学概論 老年看護学概論 成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣⅤ 老年看護学援助論ⅠⅡ 成人・老年看護学実習Ⅰ	
小児看護学	小児看護学概論	1	30							
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30							
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30							
	小児看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 小児看護学概論 小児看護学援助論ⅠⅡ
母性看護学	母性看護学概論	1	30							
	母性看護学援助論Ⅰ	1	30							
	母性看護学援助論Ⅱ	1	30							
	母性看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 母性看護学概論 母性看護学援助論ⅠⅡ
精神看護学	精神看護学概論	1	30							
	精神看護学援助論Ⅰ	1	30							
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30							
	精神看護学実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 精神看護学概論 精神看護学援助論ⅠⅡ
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	30							
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30							
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30							
	地域における暮らしと環境	1	30							
	地域で生活する人と看護	1	30							
	生活する人を知る実習	1	30							
	地域で生活する人と看護実習	2	60							看護の場を知る実習 生活する人を知る実習 基礎看護学実習ⅠⅡ
	地域・在宅看護論実習	2	80							解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論ⅠⅡ 地域で生活する人と看護の実習
領域横断	問題解決思考の活用と実践Ⅰ	1	30							
	薬物療法と看護	1	30							
	各発達段階における手術と看護	1	30							
	エンド・オブ・ライフ・ケア	1	30							
	ファミリーケア	1	30							
	ヘルスプロモーション	1	30							
	看護の実践の統合と	医療安全	1	30						
問題解決思考の活用と実践Ⅱ	2	45								
国際看護と災害看護	1	30								
看護の統合実習	2	80							全ての実習	
合計		102	3015							

\*履修時期（前期・後期）については変更になる場合があります

## 基礎分野 14(360) 本校14(360)

### 基礎分野構築の考え方

基礎分野は「専門基礎分野」および「専門分野」の基礎となる科目を設定する。すなわち「科学的思考の基盤」となる科目、「人間と生活、社会の理解」のための科目から構成される。「科学的、理論的思考にもとづいた看護を实践できる能力を養うための科目は、思考の基礎、哲学、心理学、情報科学、さらに思考するための手段として、コミュニケーション、カウンセリングとした。

また、「人間と生活、社会の理解」については、看護の対象である人間は、社会で生活するかけがえのない一人の人間であることを理解すること、また、国際化及び情報化に対応できる能力を養えること、そして学生が人間性豊かに、主体的に行動できる科目として、社会人基礎力、医療英語、ライフサイクル論、社会学、生命倫理、人間関係論、芸術、レクリエーションとした。

教育内容	授業科目	単位	時間
科学的思考の基盤 6(165)	思考の基礎	1	30
	哲学	1	15
	心理学	1	30
	コミュニケーション	1	30
	カウンセリング	1	30
	情報科学	1	30
人間と生活 社会の理解 8(195)	社会人基礎力	1	15
	医療英語	1	30
	ライフサイクル論	1	15
	社会学	1	30
	生命倫理	1	30
	人間関係論	1	30
	芸術	1	30
	レクリエーション	1	15

## 1. 授業科目 思考の基礎

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護の現場では、種々の報告・依頼・記録・連絡・説明等の文章を書き、言葉で伝える場面が多くあります。自分で考え、伝えたいことが、相手に確実に伝わるように書くこと、話すこと、つまり、論理的に表現することが大事になります。そのための基礎力を養うことを目的とします。

**目標** ①論理的に思考することを学び、表現する能力を養う  
②日本語を見直すことによって、思考力・判断力・表現力の基礎となる力をつける

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 自分で考えることについて(導入)、言葉と漢字演習①
- 第2回 文章(具体例①)を読み、内容について、自分の考えを表現する(演習①)
- 第3回 自分で考え表現することについて(解説)、言葉と漢字演習②
- 第4回 文章(具体例②)を読み、内容について、自分の考えを表現する(演習②)
- 第5回 表現方法について(解説)、言葉と漢字演習③④
- 第6回 文章(具体例③)を読み、内容について、自分の考えを表現する(演習③)
- 第7回 表現方法の留意点について(解説)、言葉と漢字演習⑤⑥
- 第8回 文章(具体例④)を読み、内容について、自分の考えを表現する(演習④)
- 第9回 文章の組み立て方について(解説)、言葉と漢字演習⑦
- 第10回 文章(具体例⑤)を読み、内容について、自分の考えを表現する(演習⑤)
- 第11回 代表的な思考方法について(解説)、言葉と漢字演習⑧
- 第12回 論題(テーマ①)について、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する(演習⑥)
- 第13回 レポートの書き方について(解説)、言葉と漢字演習⑨⑩
- 第14回 論題(テーマ②)について、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する(演習⑦)
- 第15回 自分について、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する(演習⑧)

## 6. 授業形式

講義により内容を解説し、その後、学生自身が演習をして理解を深める形式で授業を進める

## 7. 視聴覚機器の活用

特にありません

## 8. 評価方法

授業内で評価します。文章の演習8回(50%)、言葉と漢字の演習10回(40%)、課題の提出(10%)

## 9. 教科書

特に指定しません。随時プリントを配布します。

## 10. 参考文献

瀧内 賢『A Iで論理的思考力を鍛える本』(2025 翔泳社)

荒木博行『構造化思考のレッスン』(2025 ディスカヴァー・トゥエンティワン)

## 11. 学生へのメッセージ

世界に多くの言語がある中、日本語は最も習得するのが難しい言語だと言われています。日本語は、ひらがな・カタカナ・漢字・数字・アルファベット等で表現され、そこに慣用句・熟語・外来語・古語・漢語がちりばめられ、さらに看護の場面では、医学・医療・看護に関する用語・略語が多く使われます。そこで、皆さんの将来の看護の現場での、読み方・書き方・伝え方を見据えて、簡単な具体例を通して、「自分の頭」で考え「自分の言葉」で表現する練習をしたいと思います。

1. 授業科目 哲学

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

目的 身の回りにある問題について、自分で考えられるようになることです

目標 考えるために基本的なやり方（概念を作る、推論で考えを組む立てるなど）を習得することです

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 哲学とは何か — 人生論、科学との違い

第2回 哲学するきっかけ — カラスにつつかれる話

第3回 関心をはっきりさせる — 『マツコの知らない世界』の県境マニアの話

第4回 考える基本 — 哲学に答えはあるか

第5回 問題を立てる — 哲学は役に立つか

第6回 概念を作る — 『デスノート』の夜神くんのやったことは正義か、人生はゲームか

第7回 概念を使う — 『暗殺教室』の殺せんせーに出来ないこと？

第8回 推論 — 人はみんな死ぬ？

6. 授業形式

講義形式（みなさんにあれこれ質問しますから、答えを考えてみてください）

7. 視聴覚機器の活用

なし

8. 評価方法

筆記試験8割、レポート2割

9. 教科書

平尾昌宏『哲学、する？』（萌書房）

10. 参考文献

必要に応じてお知らせします。

11. 学生へのメッセージ

「テツガク」なんて言うと、堅い、難しいと思われがちですが、こんな楽しいことはありません。みんなでやってみましょう。そのために、授業では、アニメやマンガ、ドラマなど、身近な話題を取り上げました。

## 1. 授業科目 心理学

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護師の仕事は、感情労働であり、ストレスの多い仕事です。この講義では、心理学という学問の学びを通して、看護師として精神的健康を維持して仕事をしていくために、感情のコントロールやストレスへの対処法について学びます

**目標**

1. 様々な心理学を通じて、心の世界について学ぶ
2. グループワークを通じて、自己・他者理解を深める
3. 人として、看護師として、健康に生きるためにストレスマネジメントを学ぶ

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 オリエンテーション①
- 第2回 オリエンテーション②
- 第3回 コミュニケーション① - 聴くことと伝えること
- 第4回 コミュニケーション② - 聴くことと伝えること
- 第5回 知覚 - 人の感覚の不思議
- 第6回 思考 - 推論・問題解決
- 第7回 発達 - 心の理論と自閉スペクトラム症
- 第8回 学習 - 行動分析とは？
- 第9回 ストレスとは？ - ストレスについて知ろう
- 第10回 ストレスへの対処法 - コーピング方略を増やそう
- 第11回 アンガーマネジメント①
- 第12回 アンガーマネジメント②
- 第13回 認知行動療法① - 認知療法 自動思考とスキーマとは？
- 第14回 認知行動療法② - REBT イラショナルビリーフを知り、論駁する
- 第15回 まとめ

## 6. 授業形式

講義 グループワーク 授業内レポート

## 7. 視聴覚機器の活用

動画視聴 DVD パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

授業内レポート

## 9. 教科書

特になし

## 10. 参考文献

講義中に随時紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

皆さんにとって、心理学が楽しく学べる時間にできたらと思っています。

1. 授業科目 **コミュニケーション**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 看護の対象となる人や家族をケアするために必須であると同時にヘルスケアチームの一員として、看護師間や多職種との連携において知識だけでなく実践できるコミュニケーション技術を修得する

**目標** 1. コミュニケーションの基礎理念や技法について理解できるようになる  
2. コミュニケーション場面において、適切な行動や言動ができるようになる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 コミュニケーションの定義や概念を理解する
- 第2回 現代社会におけるコミュニケーションの特徴や傾向について知る
- 第3回 ミスコミュニケーションはなぜ起きるのか(メカニズムについて知る)
- 第4回 コミュニケーションの種類
- 第5回 医療(看護)におけるコミュニケーション
- 第6回 良好なコミュニケーションに必要なスキル(1)：質問技法
- 第7回 良好なコミュニケーションに必要なスキル(2)：相手の気持ちに寄り添う(傾聴と共感)
- 第8回 良好なコミュニケーションに必要なスキル(3)：相手のもっている力を引き出す
- 第9回 アサーティブ・コミュニケーション
- 第10回 アンガーマネジメント
- 第11回 看護面接のトレーニング
- 第12回 高度なコミュニケーション：多職種連携、患者家族とのコミュニケーション
- 第13回 高度なコミュニケーション：実習で学生が遭遇するコミュニケーション困難時の対応
- 第14回 集団におけるコミュニケーション(1)：ディベートについて
- 第15回 集団におけるコミュニケーション(2)：ディベートの実施

6. 授業形式

講義、演習(グループワーク)

7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint)

8. 評価方法

筆記テスト(8割) 授業内レポート課題(2割)

9. 教科書

適宜、資料を配布する

10. 参考文献

適宜、授業中に紹介する

11. 学生へのメッセージ

看護師は、何らかの健康問題をもつ患者に対して、疾患を理解するための問いかけをしたり、家族関係、社会的役割など様々な事情を理解するために耳を傾けたり、安心して治療が受けられるよう援助していくなどの様々な場面に応じたコミュニケーションを求められます。常に自身のコミュニケーションの特徴や傾向を意識し、スキルアップする意識を持ってください。

## 1. 授業科目 カウンセリング

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** カウンセリングの基礎を理解し、基本的な姿勢を培う

**目標** カウンセリングの基礎概念や基本姿勢を学び、その実際を理解すること  
また、実習を通して自分への理解を深めること

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 イントロダクション/カウンセリングにおける専門性—『聴く』こと<実習>聴く

第2回 カウンセリングの枠組み/『見立て』について<DVD>初回面接の実際

第3回 カウンセリングの流派 —ロジャースの理論<実習>聴き方の違い

第4回 カウンセリングの流派 —ロジャースの理論<DVD>面接の実際

第5回 カウンセリングの流派 —フロイトの理論と精神分析

第6回 カウンセリングの流派 —ユングの理論とタイプ論

第7回 カウンセリングの流派 —ユングの理論と<実習>夢分析

第8回 カウンセリングの技法 <実習>描画法①

第9回 カウンセリングの技法 <実習>描画法②

第10回 カウンセリングの技法 箱庭<DVD>箱庭の実際

第11回 カウンセリングの技法 箱庭<実習>コラージュ法

第12回 日本のカウンセリング

第13回 ストレスとの付き合い方

第14回 老年期

第15回 まとめ<実習>聴く (授業を踏まえて再度挑戦)

## 6. 授業形式

講義形式 適宜、実習やグループワークを行う。

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVDなど。

## 8. 評価方法

筆記試験および、授業ごとに提出する小レポートで評価する。筆記試験9割、小レポート1割

## 9. 教科書

特になし

## 10. 参考文献

授業の中で適宜紹介する。

## 11. 学生へのメッセージ

カウンセリングについて知識を学ぶこととともに、DVD の視聴や実際の技法体験を通して、より生き活きとカウンセリングをイメージしてもらえたらと思います。

## 1. 授業科目 情報科学

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護における情報リテラシーおよび情報処理の意義を理解し、健康指標の評価に必要な情報処理の基礎を学ぶ

**目標** 1. 生物統計の基礎と情報処理の方法について理解する  
2. 信頼性の高い情報の検索方法を理解する

## 5. 授業内容

[\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 オリエンテーション 情報科学とは 個人情報保護法において

第2回 パソコンやUSBの取扱い

第3回 演習① Wordとは その基本的操作

第4回 演習② Wordの応用操作

第5回 演習③ Wordで資料を作成する

第6回 演習④ Excelとは その基本的操作

第7回 演習⑤ Excelの応用操作

第8回 演習⑥ Excelでグラフや表を作成する

第9回 演習⑦ WordとExcelのまとめ

第10回 演習⑧ PowerPointとは その基本的操作

第11回 演習⑨ PowerPointの応用操作

第12回 演習⑩ PowerPointでプレゼンテーションをする

第13回 演習⑪ 電子カルテとは メリットとデメリット

第14回 演習⑫ 電子カルテの実際とまとめ

第15回 演習⑬ ①これからの診療の動向

②医療DXについて

## 6. 授業形式

講義および演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験7割、演習課題3割

## 9. 教科書

適宜資料を配付します

## 10. 参考文献

できるWord&Excel&PowerPoint2019 (インプレス)

Excel 最強の教科書 (SBクリエイティブ)

## 11. 学生へのメッセージ

学生のときに便利なパソコンの基本的な操作を習得しましょう。必ずパソコン操作ができる人とそうでない人がペアになって座ってください。医療現場において導入されている電子カルテに対し、スムーズに適應できることも本科目の役割だと思っています。

1. 授業科目 **社会人基礎力**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

**目的** 社会人としての基本的な接遇やマナー、集団の中で協働する力など社会に貢献できる資質や能力を身につけるとともに、看護師としての倫理や人権意識を養う。看護領域における研究の概要を学び、看護研究の基礎となる知識技術態度を養う。

**目標**

1. 周囲の人と強調しつつ、主体的に社会にかかわることができる
2. 自分が関わる対象すべての人権を大切に考えることの必要性がわかる
3. 看護する場面で、対象のありたい姿を尊重することの具体が事例から考えることができる
4. 日本看護協会「看護職の倫理綱領」に触れ、看護職の在り方、看護実践について考える機会をもつ
5. 接遇の基本が理解できる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 社会人としての接遇やマナーの基本（挨拶、言葉遣い、所作など）
- 第2回 社会人基礎力とは何か 「社会人とは」、「社会人としての心構え」とは何か
- 第3回 社会人基礎力①「アクション」「シンキング」
- 第4回 社会人基礎力②「チームワーク」
- 第5回 接遇の基本 医療現場での接遇の実際
- 第6回 看護と人権 看護職の倫理綱領から人権について
- 第7・8回 看護における倫理的課題と対象の尊厳

6. 授業形式

講義、演習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン（動画）

8. 評価方法

小テスト、授業内レポート課題

9. 教科書

よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）

10. 参考文献

授業時、適宜紹介する

11. 学生へのメッセージ

看護師という職業人としてだけでなく、社会の構成員の一人としての立場や役割を自覚できるようになってほしいと思っています。

1. 授業科目 医療英語

2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 看護・医療の現場で使用される英語表現に親しむことで基本的な文法を復習し、英文で記述されている内容を正確に理解する

**目標** 看護・医療の現場で使用される基礎的な英語表現を習得する。また、それを用いた英語によるコミュニケーション能力を養う

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 会話の中でわからない言葉や表現があるときに必要な表現を学ぶ
- 第2回 簡単な情報を得るための基本的な質問の仕方、答え方を学ぶ
- 第3回 丁寧な質問の仕方・答え方を学ぶ①生活で使用する数字の表現
- 第4回 丁寧な質問の仕方・答え方を学ぶ②患者の基本情報の聴取
- 第5回 病院で使用される用語・表現を学ぶ①診療科名等の用語
- 第6回 病院で使用される用語・表現を学ぶ②基本的な質問
- 第7回 院内の施設などを案内するための表現を学ぶ
- 第8回 症状と徴候の表現を学ぶ①基本用語・表現
- 第9回 症状と徴候の表現を学ぶ②症状の伝え方・聴き取り方
- 第10回 病歴・アレルギーの有無について尋ねる表現を学ぶ①主要な病名・時の表現
- 第11回 病歴・アレルギーの有無について尋ねる表現を学ぶ②症状・病歴の聴取
- 第12回 薬の用法の説明に必要な表現を学ぶ
- 第13回 検査前の注意事項の説明に必要な表現を学ぶ
- 第14回 手術の手続き、術前の注意事項の説明に必要な表現を学ぶ
- 第15回 まとめ

6. 授業形式

講義及び演習

7. 視聴覚機器の活用

CD

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）

10. 参考文献

授業で適宜紹介する

11. 学生へのメッセージ

英語が使えるようになると、より多くの情報を得ることができるようになります。頑張りましょう。

## 1. 授業科目 ライフサイクル論

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

**目的** あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とした看護を実践するための基礎的知識を養う

**目標**

1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズについて理解する
2. 人のライフサイクルと発達課題について理解する
3. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズについて理解する
4. 生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズについて理解する

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズと看護の関係性

第2回 ライフサイクルから見た子どもの特徴

第3回 ライフサイクルから見た成人の特徴

第4回 ライフサイクルから見た高齢者の特徴

第5回 ライフサイクルから見た親になる人の特徴

第6回 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ

第7回 生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズ

第8回 まとめ

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論 (医学書院)

看護がみえる vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

看護の対象者はあらゆる年代の人々です。対象理解の基本についてライフサイクル論を通して楽しく学んでいきましょう。

**1. 授業科目** 社会学

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 1年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目的・目標**

**目的** 社会のなかで生きる「人間」に対する理解を深め、様々な社会現象を社会学の視点で分析できるようになる

身近な社会問題について、主体的に考えられるようになる

- 目標**
1. 社会学の歴史を学び、各種理論を理解する
  2. 社会の影響を受けている「自分自身」への理解を深める
  3. 社会の中で共に生きる「他者」への理解を深める
  4. 様々な社会現象に関心を持ち、身近な社会問題の解決に向けて主体的に考えることができるようになる

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 社会学とは
- 第2回 社会学の歴史①
- 第3回 社会学の歴史②
- 第4回 相互行為、自我、他位・役割など
- 第5回 集団、組織、ネットワーク
- 第6回 ジェンダー①
- 第7回 ジェンダー②
- 第8回 家族・子育て①
- 第9回 家族・子育て②
- 第10回 メディア
- 第11回 ボランティア
- 第12回 地域
- 第13回 科学
- 第14回 社会調査
- 第15回 まとめ

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン (PowerPoint)、DVD

**8. 評価方法**

講義内で指示する課題

**9. 教科書**

特に指定しません。

**10. 参考文献**

授業中に指示します。

**11. 学生へのメッセージ**

事前事後学習もしっかり取り組んでください。

## 1. 授業科目 生命倫理

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 医療現場に従事するにあたって「生命倫理」「医療倫理」に関わる様々な問題を具体的に理解すること目的とする

**目標** 授業で学んだ「生命倫理」の諸問題を、医療現場での実践の際に役立てることを目標とする

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 「生命倫理」や「哲学」という言葉をその語源から考える

第2回 「キュアとケア」。キュアとケアの役割の違いを考える

第3回 「SOLとQOL」。生命の尊厳と生命の質。優先すべきはどちらか

第4回 「優生思想」の誕生と展開1：社会ダーウィニズム

第5回 「優生思想」の誕生と展開2：批判者ハクスリーと推進者ティレ

第6回 「優生思想」の誕生と展開3：個人の「死の権利」と国家の介入

第7回 「優生保護法」と「らい予防法」。個人の生への国家の介入

第8回 「新型出生前診断」と「新型着床前診断」。生命の選択の意味

第9回 「キリスト教の生命観」とデカルトの「心身二元論」。「脳死」への位置づけ

第10回 「脳死と臓器移植」。「脳死状態」と「臓器移植」が関連付けられた意味

第11回 「臓器移植法」の改定と問題点。改めて倫理の意味とは

第12回 「ドキュメンタリー・家族が最期を決めるとき」鑑賞

第13回 「安楽死」1 オランダの場合。問題点はないのか

第14回 「安楽死」2 アメリカオレゴン州とスイスの場合

第15回 「ドキュメンタリー・彼女は安楽死を選んだ」鑑賞

### 6. 授業形式

講義形式となります。講義約60分+テスト約30分

### 7. 視聴覚機器の活用

ブルーレイディスクプレーヤー

### 8. 評価方法

毎回の講義内試験による得点の総計(定期テストは行わない)。したがって、真剣に試験を受験すること

### 9. 教科書

松田 純 『安楽死・尊厳死の現在』(中公新書)、他に『テーマ30 生命倫理』(教育出版)から必要な箇所をコピーして配布する

### 10. 参考文献

授業内で適宜紹介する

### 11. 学生へのメッセージ

授業中、スマートフォンの使用は厳禁。必ず電源を切ったうえで、カバン等にしまうこと。授業も仕事の一環と考え、真摯に授業に取り組むこと

## 1. 授業科目 人間関係論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 人間関係の基礎理論と諸問題について講義と演習を交えて学習する。基本的な理論については、社会学、心理学、コミュニケーション論の側面から総合的に理解すること、応用的には具体的な人間関係の諸問題を解決すべくコミュニケーション能力を高めていくこと目的とする

**目標** 現代社会の変化にも注目しながら、医療の現場はもちろん、それらを取り巻く家族や地域社会などの環境における人間関係のさまざまな問題について、意欲と関心を持って考えられるようになること。また、グループワークを通して、他者理解やチームワークのあり方、自分の意見をさまざまな方法で表現する方法を知り、人間関係形成能力を高めていくための技術を習得することを目標とする

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 ガイダンス／関係的成長ということ～対人関係地図の作成
- 第2回 人間関係構築の支援～構成的グループエンカウンター
- 第3回 自己理解～自己理解のための検査法
- 第4回 相互理解～情報の提供と収集
- 第5回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(1) 言語・非言語の基礎理論
- 第6回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(2) コミュニケーションの諸相
- 第7回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(3) コーチング理論を使って
- 第8回 コミュニケーション・スキルを学ぶ
- 第9回 集団と組織の人間関係(1) アサーションの基本
- 第10回 集団と組織の人間関係(2) アサーション・トレーニング
- 第11回 集団と組織の人間関係(3) 集団の機能とリーダーシップ
- 第12回 チーム医療を学ぶ～チーム医療と医療安全のためのコミュニケーション
- 第13回 援助的なコミュニケーション(1) カウンセリングの技法
- 第14回 援助的なコミュニケーション(2) 患者・家族を支える人間関係／終末期
- 第15回 援助的コミュニケーションの実際

### 6. 授業形式

講義を中心に行うが、テーマによっては随時演習形式(グループワーク)も取り入れる。

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、パワーポイント、Blu-ray

### 8. 評価方法

筆記試験(60%)、小テスト(20%)、レポート課題(10%)、発表(10%)

### 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 人間関係論(医学書院)

### 10. 参考文献

授業で随時紹介する

### 11. 学生へのメッセージ

小テストは必ず受けること。提出物は必ず提出すること。発表やグループディスカッションでは多くの意見や疑問を交換しあえるよう積極的に参加すること。

1. 授業科目 芸術

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的 音楽** 音楽が人の心や生き方に与える効果を理解し、医療の現場に生かせる知識や技術を身につける

**硬筆** 硬筆を学ぶことで文字文化に親しみ、手書きの利点を生かせる

**目標 音楽** 音楽の多様性に触れながら、音楽が人にどのような形で働きかけているのかを学び、理解を深めていく

**硬筆** バランスの整った文字を書くことができ、日常生活で活かすことができる

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 音楽と自己との関わりを見つめる
- 第2回 生活の中の音楽—童謡と唱歌
- 第3回 音楽の表現—手話で歌おう
- 第4回 音楽療法アプローチ ①
- 第5回 音楽療法アプローチ ②
- 第6回 音楽療法アプローチ ③
- 第7回 世界の音楽
- 第8回 まとめ—音楽と医療
- 第9回 書体の基本・線からカタカナへ
- 第10回 (楷書体)単体と複合体
- 第11回 ひらがな
- 第12回 たて書きのまとめ方
- 第13回 よこ書きのまとめ方、数字とアルファベット
- 第14回 行書体の基本
- 第15回 まとめ

6. 授業形式

**音楽** 講義および全体での実技形式

**硬筆** 講義及び実技と個人添削

7. 視聴覚機器の活用

**音楽** CD、DVD

**硬筆** なし

8. 評価方法

**音楽** 筆記試験6割、レポート課題4割

**硬筆** 毎回の提出物5割、講義内小テスト5割

9. 教科書

**音楽** 適宜、楽譜・プリントを配布する

**硬筆** プリントを配布する

10. 参考文献

**音楽** 授業中に紹介する

**硬筆** 滋賀県書道協会「人間形成における書教育」

11. 学生へのメッセージ

**音楽** 音楽を楽しみながら、心豊かに学んでいきましょう

**硬筆** スマホ、SNSなどのIT社会の中で「字を書くこと」「手書き文字」の意味を考えながら取り組んでください。

## 1. 授業科目 レクリエーション

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

**目的** 本科目では、医療・保健・福祉分野におけるレクリエーションの意義、リハビリテーションとレクリエーションの関わり、レクリエーション援助におけるゲームやアクティビティの考え方や実施方法について学び、対象者それぞれに応じた具体的な実施方法について考えます。

**目標**

1. リハビリテーションへのレクリエーションの活用の仕方について理解する。
2. レクリエーション活動の楽しさをとおした心の元気づくりについて理解する。
3. 対象者に応じた楽しいレクリエーション活動を提案して支援できる。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 リハビリテーションにおける作業療法とレクリエーション
- 第2回 レクリエーションの概念と効果
- 第3回 レクリエーション援助の実際と注意点① 個人への援助
- 第4回 レクリエーション援助の実際と注意点② 集団を介した援助
- 第5回 レクリエーション活動の実際① アイスブレイキング(導入段階)
- 第6回 レクリエーション活動の実際② アイスブレイキング(交流・発展段階)
- 第7回 レクリエーション活動の実際③ グループレクリエーション
- 第8回 まとめ

## 6. 授業形式

レジュメやワークシートを用いた演習、グループワーク

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、プロジェクター

## 8. 評価方法

筆記試験7割、レポート課題3割

## 9. 教科書

特に指定しない

## 10. 参考文献

楽しさをとおした心の元気づくり：レクリエーション支援の理論と方法  
(公財)日本レクリエーション協会)

リハビリテーションとレクリエーション援助(嵯峨野書院)

## 11. 学生へのメッセージ

レクリエーションのさまざまな活動を通して、その考え方や支援の仕方などを楽しく学んでいきましょう。

## 専門基礎分野 22(555) 本校22(555)

### 専門基礎分野構築の考え方

専門基礎分野では「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」について、看護の対象である人体のメカニズムを理解する。そして、人間にとって呼吸をする、食べる、排泄するなどの日常生活行動は、生命活動につながる営みであることを学べる内容とする。特に病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）において自立にむけた看護援助ができるよう演習を多く取り入れた内容とする。微生物学においては感染、薬理学において医療安全との関連、栄養学において対象への食事指導など臨地で活用の多いものを学ぶ内容とする。

「健康支援と社会保障制度」については、人々の健康の保持増進をすすめ、生涯を通じて社会資源を活用できるような知識や基礎的な能力を養うような内容とする。保健医療社会福祉についての、理解を深めるため、医療概論・公衆衛生学・社会福祉・関係法規を設定した。

教育内容	授業科目	単位	時間
人体の構造と機能 5(150)	解剖生理学Ⅰ(人体の構造・生命現象の基本・免疫)	1	30
	解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)	1	30
	解剖生理学Ⅲ(消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器)	1	30
	解剖生理学Ⅳ(運動器・脳神経・感覚器)	1	30
	解剖生理学Ⅴ	1	30
疾病の成り立ちと 回復の促進 11(300)	事例から学ぶ病気	1	15
	病態治療論Ⅰ(総論・血液)	1	30
	病態治療論Ⅱ(呼吸器・循環器)	1	30
	病態治療論Ⅲ(消化器及び外科疾患・腎泌尿器)	1	30
	病態治療論Ⅳ(内分泌・免疫)	1	30
	病態治療論Ⅴ(運動器・脳神経)	1	30
	病態治療論Ⅵ(感覚器)	1	30
	病態治療論Ⅶ(リハビリテーション)	1	15
	栄養学と代謝	1	30
	微生物学	1	30
薬理学	1	30	
健康支援と 社会保障制度 6(105)	医療概論	1	15
	公衆衛生学	1	30
	社会福祉	2	30
	関係法規	2	30

1. 授業科目 **解剖生理学 I (人体の構造・生命現象の基本・免疫)**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 看護学の基礎として、人体の構造と機能を理解する

**目標** 1. 解剖生理学の基礎用語を理解して説明することができる

2. 生体の階層構造を理解する

3. エネルギー代謝、体温の調整機構、生体の防御機構を理解する

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 形からみた人体、人体とはどのようなものか、細胞の構造とその構成

第2回 エネルギー代謝、核酸とタンパク質の合成

第3回 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体

第4回 分化した細胞がつくる組織

第5回 細胞と組織 まとめ

第6回 機能からみた人体、ホメオスタシス

第7回 構造・機能からみた人体まとめ

第8回 皮膚の構造と機能

第9回 非特異的防御機構

第10回 特異的防御機構

第11回 免疫の異常、生体防御の関連臓器

第12回 生体の防御機構 まとめ

第13回 代謝と運動

第14回 体温とその調節

第15回 まとめ

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

適宜、パワーポイントを使用する

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 (医学書院)

系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)

10. 参考文献

講義内で紹介する

11. 学生へのメッセージ

解剖生理学では、人体がどのような構造でできているのか、またその構造物がどのように機能して生命を支えているのかを学びます。Iでは、解剖生理学を学ぶための基礎的な知識を身につけるために、まず解剖学・生理学の用語に慣れるとともに、ヒトの体の仕組みとはたらきについて学習しましょう。解剖生理学では覚えなければいけないことがたくさんあります。ワークブックとともに、自分のオリジナルのノートを作って学習を進めることを推奨します。

1. 授業科目 **解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的 呼吸器** 呼吸に関する器官の構造と機能を理解し生命維持にどのような意義を持つのか学ぶ  
さらに呼吸器系の病態生理のメカニズムを学ぶ

**循環器** 循環に係る器官の構造と機能を理解し解剖生理学と疾患との繋がりを知る

- 目標**
1. 呼吸器系の構造を述べることができる
  2. 呼吸器系の機能を説明することができる
  3. 呼吸器系の病態生理を説明することができる
  4. 循環器系の構造と機能を理解する

5. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 ガイダンス・呼吸器系の構造（上気道）
- 第2回 呼吸器系の構造（下気道と肺）
- 第3回 呼吸器の機能（呼吸運動）
- 第4回 呼吸器の機能（呼吸器量・ガス交換）
- 第5回 呼吸器の機能（呼吸運動の調節）
- 第6回 呼吸器系の病態生理・まとめ
- 第7回 血液の組成と機能
- 第8回 血液の生理
- 第9回 循環器系の概要
- 第10回 心臓の構造
- 第11回 心臓の拍出機能
- 第12回 抹消循環系の構造
- 第13回 血液の循環調節
- 第14回 リンパ系
- 第15回 血液・循環器系まとめ

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

パソコン（PowerPoint）

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）

系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

10. 参考文献

適宜紹介します。

11. 学生へのメッセージ

**呼吸器** 解剖生理学はこれから皆様が学んでいく疾患、看護の土台となる科目です。予習、復習をしっかりとこない、知識を身に付けていきましょう。わからないところは決してそのままにしないことです。

**循環器** この世に生まれて死ぬまで、休むことなく繰り返される“心臓の拍動”は、みなさんの身体活動に合わせて必要に応じて早くなったり遅くなったりしながら、無意識的に行われています。このような素晴らしい構造と機能を持っている循環器系の仕組みと一緒に学びましょう。臨床においても、採血や点滴、バイタルチェックなど、ここで学ぶ知識は重要となりますので、しっかりと頑張ってお身に付けていきましょう。

1. 授業科目 **解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器）**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 消化器や内分泌の構造や機能を理解し身体の様々な調節機構を理解する  
腎泌尿器・生殖器系の構造と機能を理解し解剖と生理学の基礎を学び各病態との関連を理解する

**目標** 消化器系の構造と機能を理解する  
内分泌系に関する器官やホルモンの機能を理解する  
自律神経系の構造と機能を理解する  
腎・泌尿器系の構造と機能を理解する  
性・生殖器系の構造と機能を理解する

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第 1 回 消化器系の役割
- 第 2 回 消化管の構造と機能
- 第 3 回 膵臓、肝臓と胆道系の構造と機能
- 第 4 回 消化・吸収と排泄機能
- 第 5 回 自律神経の種類・機能と臓器の調整機構
- 第 6 回 内分泌系による調節（ホルモンの種類と生理作用・内分泌腺）
- 第 7 回 内分泌器官とホルモン（分泌腺と機能）
- 第 8 回 腎・泌尿器系の概要
- 第 9 回 腎臓の構造と機能
- 第 10 回 排尿路の構造と機能・体液調節
- 第 11 回 性・生殖器系の概要
- 第 12 回 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能
- 第 13 回 受精と胎児の発生
- 第 14 回 成長と老化
- 第 15 回 まとめ

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

パワーポイントの使用  
資料配布

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）  
系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

10. 参考文献

適宜紹介する

11. 学生へのメッセージ

解剖生理学は看護を学ぶ上で重要な科目です。人体の構造が体内のホルモン調整がどのように影響するのか。成長や各臓器への調整を行い内部環境を整えるのか。私たちの身体をコントロールする機能生体反応を大いに認識できます。身体を知る学ぶ第一歩として学修に取り組みましょう。

## 授業科目 解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）

### 1. 担当者名

2. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 3. 学習目的・目標

目的 看護学の基礎として、人体の構造と機能を理解する

- 目標
1. 骨格と筋肉の形態・機能を理解する
  2. 中枢・末梢神経・脳の構造と機能を理解する
  3. 特殊感覚器の構造と機能を理解する

### 4. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 骨格・関節・骨格筋
- 第2回 筋の収縮
- 第3回 体幹の骨格と筋
- 第4回 上肢の骨格と筋
- 第5回 下肢の骨格と筋
- 第6回 頭頸部の骨格と筋
- 第7回 運動器 まとめ
- 第8回 神経系の構造と機能
- 第9回 運動機能と下行伝導路、感覚器能と上行伝導路
- 第10回 脊髄と脳
- 第11回 脊髄神経と脳神経
- 第12回 脳の高次機能
- 第13回 眼の構造と視覚、味覚、嗅覚
- 第14回 耳の構造と聴覚・平衡覚、疼痛
- 第15回 まとめ

### 5. 授業形式

講義形式

### 6. 視聴覚機器の活用

適宜、パワーポイントを使用する

### 7. 評価方法

運動器 筆記試験

脳神経・感覚器 筆記試験 9割 レポート課題 1割

### 8. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）  
系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

### 9. 参考文献

講義内で紹介する

### 10. 学生へのメッセージ

解剖生理学では、人体の構造とその機能を理解することが目標です。Ⅳでは、体を動かすために必要なしくみである運動器と、生命活動を維持したり、運動器が正しく機能したりするのに必要な神経系、体の内外の刺激を受け取る感覚器について学びましょう。運動器・感覚器・脳神経の構造・機能について多くのことを短期間で学びます。自主勉強は必須です。教科書をよく読み、自分自身のノートを作って学習をすすめましょう。

1. 授業科目 **解剖生理学V**

2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 病気による症状発生のメカニズムを解剖生理学的に理解することで対象の疾患理解につなげる

**目標** 症状や治療についてメカニズムを解剖生理学的に理解し説明できる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回	呼吸が苦しくなる(呼吸が止まる)原因やメカニズムを理解する	①調べ学習
第2回	〃	②調べ学習、発表準備
第3回	〃	③発表 補足説明
第4回	浮腫や腹水が溜まる原因やメカニズムを理解する	①調べ学習、発表準備
第5回	〃	②発表 補足説明
第6回	ショックの原因やメカニズムを理解する	①調べ学習、発表準備
第7回	〃	②発表 補足説明
第8回	胃切後貧血、白血病、低髄圧症、肝性脳症について	①調べ学習、発表準備
第9回	〃	②発表 補足説明
第10回	人工透析を理解する	①調べ学習、発表準備
第11回	〃	②発表 補足説明
第12回	体重減少がおこる原因やメカニズムを理解する	①調べ学習、発表準備
第13回	〃	②発表 補足説明
第14回	尿量低下、黄疸等	①調べ学習、発表準備
第15回	〃	②発表 補足説明

6. 授業形式

講義 課題学習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン

8. 評価方法

課題 21点、筆記試験 79点

9. 教科書

全ての教科書

10. 参考文献

図書室にある本全て

11. 学生へのメッセージ

臨地実習や看護師国家試験にもつながる学習です  
わからない事はとことん調べて、苦手を克服しよう

## 1. 授業科目 事例から学ぶ病気

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

**目的** 事例をじっくり読み解くことで、病態をふまえた根拠ある看護援助へつなげる

**目標** 教科書を熟読し、一語一語理解しながら調べることで、事例の疾患について説明できる事例について、必要な情報を収集し、得られた情報から患者の病状の経過を説明できる

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 オリエンテーション

疾患① 呼吸器の教科書を読み「知りたいこと」を探す

言葉の意味、理解できない文章等、書きだしていこう

一般的な病態を理解するために「知りたいこと」をどんどん探し、調べてみよう

第2回 調べたことを確認し、疾患の理解につなげよう

第3回 事例の提示(入院中の経過表) 経過表からわかったことを書き出してみよう

第4回 病気の経過(検査、症状、治療)に焦点を当てて説明してみよう

第5回 グループの人にAさんの経過を説明してみよう

第6回 疾患② 循環器の教科書を読み「知りたいこと」を探し、調べてみよう

第7回 事例の提示(入院中の経過表) 経過表からわかったことを書き出してみよう

第8回 病気の経過(検査、症状、治療)に焦点を当てて説明してみよう

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

## 8. 評価方法

課題・発表(講義の初回に詳しく説明します)

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3)循環器(医学書院)

## 10. 参考文献

図書室にある全ての本

## 11. 学生へのメッセージ

こんなこと聞いたら恥ずかしいという気持ちを捨てて、質問しよう

ここで理解しなければ、後々困るので、あきらめないで学習しよう

わかると楽しいですよ

1. 授業科目 病態治療論 I (総論・血液)

2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

目的 総論 疾患の原因とその結果生ずる病態、症状との関係を考える力を養う

血液 疾病の成り立ちを理解する

目標 総論 疾患を原因別に分類できる。症状の起こる原因を理解する

血液 造血のしくみから造血器疾患およびその治療について理解する

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 病因論 病気の原因の分類
- 第2回 先天性疾患 染色体異常、遺伝子異常
- 第3回 炎症・組織修復 細胞損傷、急性炎症、慢性炎症
- 第4回 代謝障害 糖尿病 高脂血症
- 第5回 循環障害(1) 梗塞、出血等の局所の循環障害
- 第6回 循環障害(2) ショック、DIC等の全身の循環障害
- 第7回 腫瘍 腫瘍の分類、原因
- 第8回 造血のしくみ
- 第9回 赤血球系疾患(貧血など)
- 第10回 造血器悪性腫瘍(主に病態について)
- 第11回 造血器悪性腫瘍(主に治療について)
- 第12回 凝固系および止血のしくみ
- 第13回 輸血細胞治療と HIV 感染症
- 第14回 終末期患者に対する看護
- 第15回 病態の理解を看護につなげる

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

総論 パソコン、プロジェクターにてスライドを提示

血液 パソコン(パワーポイント)

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

総論 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(1)病理学(医学書院)

血液 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4)血液・造血器(医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

総論 始めに疾患に共通する病態を勉強しておく、個々の疾患を勉強するときに想像、応用しやすくなると思います。わからないことは質問してください。

血液 講義に実際の症例をとり入れ、将来看護師になられるための動機づけになるような講義にしたいと思っています。

難しく見える事もわかりやすく、そして国家試験につながる講義を目指します。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 呼吸器** 呼吸器疾患の解剖・生理・病態について学び、知識・理解を深める

**循環器** 循環器システムの基礎と病態について理解を深める

**目標 呼吸器**

- ・呼吸器疾患の理解に必要な解剖・生理について理解する
- ・代表的な呼吸器疾患の原因・症状・治療について理解する
- ・呼吸器疾患患者の特徴を理解し、看護に反映させる

**循環器**

- ・病棟や外来での看護業務において必要な循環器の検査や疾患の知識を修得する。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 第2章 呼吸器の構造と機能 第3章 症状とその病態生理 **A** 自覚症状
- 第2回 第3章 **B** 他覚症状、第4章 検査と治療・処置 **A**、**B** 検査①～⑨
- 第3回 第4章 検査と治療・処置 **C** 治療・処置①～⑧
- 第5章 疾患の理解 **A** 本章で学ぶ呼吸器疾患①～④ **B** 感染症①～③, ④の(4)分類
- 第4回 第5章 疾患の理解 **B** ④(5)肺炎各論、⑤～⑥非結核性抗酸菌症
- 第5回 第5章 疾患の理解 **C** 間質性肺疾患①～⑧ **D** 気道疾患①、②
- 第6回 第5章 疾患の理解 **D** 気道疾患③慢性閉塞性肺疾患～**G** 呼吸調節に関する疾患
- 第7回 第5章 疾患の理解 **H** 肺腫瘍 ～ **L** 胸部外傷
- 第8回 循環器概論
- 第9回 循環器生理学、循環器診断学、循環器疾患の主要症候
- 第10回 循環器疾患の検査
- 第11回 心不全の病態・検査・治療、動脈硬化、虚血性心疾患
- 第12回 虚血性心疾患、不整脈の診断
- 第13回 不整脈の検査・治療
- 第14回 心臓弁膜症、心内膜炎
- 第15回 心筋疾患、心膜疾患、動脈疾患、先天性心疾患

## 6. 授業形式

**呼吸器** 板書による講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

**呼吸器** 講師作成プリントを使用

**循環器** スライド (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**呼吸器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器 (医学書院)

病気がみえる vol.4 呼吸器 (メディックメディア)

**循環器** 病気がみえる vol.2 循環器 (メディックメディア)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**呼吸器** 眠くならない講義を目標にしています。現場で役に立つ、トリビア等もお教えます。

**循環器** 心電図などに苦手意識を持たないように、一緒に勉強していきましょう。

1. 授業科目 病態治療論Ⅲ（消化器及び外科疾患・腎・泌尿器）

2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

目的 疾患の成り立ちを理解する

- 目標
- 消化器 1. 消化器疾患の病態を理解する
  - 2. それぞれの疾患に対する治療方法を理解する
  - 3. 治療を受けられる患者様の看護について考える
  - 腎・泌尿器 1. 腎・泌尿器の解剖・生理の理解
  - 2. 一般的な腎・泌尿器疾患の病態生理の理解
  - 3. 各種の腎・泌尿器疾患の理解

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 上部消化管疾患（食道、胃・十二指腸）
- 第2回 下部消化管疾患①（小腸、大腸）
- 第3回 下部消化管疾患②（大腸、肛門）
- 第4回 急性腹症
- 第5回 肝疾患
- 第6回 胆道疾患
- 第7回 膵疾患、乳腺疾患
- 第8回 腎・泌尿器の解剖・生理
- 第9回 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
- 第10回 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
- 第11回 腎・泌尿器疾患の検査と治療
- 第12回 腎疾患の理解
- 第13回 腎・泌尿器疾患の理解
- 第14回 泌尿器疾患の理解
- 第15回 病態の理解を看護につなげる

6. 授業形式

講義形式、必要な際にはパソコンによるプレゼンテーションを行う。

7. 視聴覚機器の活用

必要な際にはパソコンを使用する。

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

- 消化器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5)消化器（医学書院）
- 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器（医学書院）

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

消化器 疾患の治療は医師がしますが、看護をする上において、十分な疾患の理解、それぞれの疾患に対する治療法を知らなければ、いい看護はできないと思います。疾患および治療を理解することはむずかしいとは思いますが、頑張りましょう。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的 内分泌** 人間は環境の様々な変化=穏やかな環境から過酷な環境の変化にも調和し安定した状態を維持しまた成長を続ける。それはどうしてかを学ぶ

**免疫** 人間が長寿であるのは免疫機構が高度に発達しているからである。しかしアレルギーや膠原病は免疫機構が引き起こす。どこに違いがあるのか？

**目標 内分泌** 1. 内分泌の意味・働きを理解する  
2. 内分泌の異常による疾患を理解する

**免疫** 1. 免疫のシステムの基礎を理解する  
2. 免疫の異常による疾患、アレルギー疾患を理解する  
3. 多くの膠原病が身近であることを知る  
4. 免疫の隙間をついた形で現れる感染症、エイズについて学ぶ

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 内分泌の仕組み、概念
- 第2回 内分泌臓器各論、下垂体疾患、甲状腺疾患
- 第3回 内分泌臓器各論、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第4回 糖尿病の概念、症状、診断、治療
- 第5回 糖尿病慢性合併症
- 第6回 糖尿病急性合併症、シックデイ、低血糖
- 第7回 脂質代謝、尿酸代謝
- 第8回 免疫のしくみ(免疫反応、免疫担当細胞、自然免疫、獲得免疫、生体防御作用)
- 第9回 アレルギーのしくみと症状(I型・II型・III型・IV型、アレルゲン、症状と経過)
- 第10回 アレルギー疾患(気管支喘息、食物アレルギーなど)
- 第11回 アレルギー疾患(アナフィラキシー、接触性皮膚炎、ラテックスアレルギーなど)
- 第12回 自己免疫疾患とその機序(自己免疫と免疫トレランス、レイノー現象、検査など)
- 第13回 膠原病(関節リウマチ)
- 第14回 膠原病(全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症など)
- 第15回 膠原病(多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、ベーチェット病など)

### 6. 授業形式

講義形式

### 7. 視聴覚機器の活用

**内分泌** 特に使用しない

**免疫** パソコン (PowerPoint) 使用

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

**内分泌** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝 (医学書院)

**免疫** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11)アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

1. 授業科目 病態治療論Ⅴ (脳神経・運動器)

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**脳神経** 医療スタッフとして共通言語である専門用語を理解し、操れるようにする  
なぜそうなるのか？を理解する

**運動器** 運動器疾患の概要と最新の診療について理解を深める

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 解剖と神経疾患の病態生理
- 第2回 神経徴候
- 第3回 閉塞性脳血管障害
- 第4回 出血性脳血管障害
- 第5回 脳腫瘍・神経外傷
- 第6回 変性疾患・末梢神経疾患
- 第7回 脱髄疾患・神経筋疾患
- 第8回 運動器疾患の概要
- 第9回 症状と病態生理・診断と検査など
- 第10回 運動器疾患の外傷
- 第11回 先天性疾患・炎症性疾患・腫瘍など
- 第12回 上肢の疾患
- 第13回 下肢の疾患
- 第14回 体幹の疾患
- 第15回 病態の理解を看護につなげる

6. 授業形式

**脳神経** 講義形式ほか

**運動器** 講義形式

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint) を使用

8. 評価方法

**脳神経** 筆記試験

**運動器** 筆記試験

9. 教科書

**脳神経** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7)脳・神経 (医学書院)

**運動器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10)運動器 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

**運動器** 運動器疾患は首から下の広い領域にわたっていますが、極力わかりやすく解説したい  
と思います。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅵ (感覚器)

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

目的 疾病の成り立ちを理解する

目標 歯・口腔 歯の構造と機能を理解する。う蝕、歯周病、代表的な口腔粘膜疾患を理解する  
義歯の取り扱い、口腔ケア、摂食嚥下について理解する

耳鼻咽喉 耳、鼻、咽喉頭の構造、機能を理解し、耳鼻咽喉科疾患の病態について理解を深める

皮膚 皮膚の構造と機能を理解し、皮膚疾患の病態について理解を深める

眼 視覚を支える目の構造・機能と、眼疾患の病態生理を理解する

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 口腔の役割、口腔解剖、う蝕、摂食嚥下について  
 第2回 歯周病、口腔外科、高齢者の口腔衛生、口腔ケア  
 第3回 代表的な口腔粘膜疾患  
 第4回 耳の解剖、機能、疾患、看護について (I)  
 第5回 耳の疾患、看護について (II)  
 第6回 鼻の解剖、機能、疾患、看護について  
 第7回 咽頭、喉頭の解剖、機能、疾患、看護について  
 第8回 皮膚の構造と機能  
 第9回 皮膚疾患の症状と検査、治療  
 第10回 皮膚疾患の各論1  
 第11回 皮膚疾患の各論2  
 第12回 視覚(視力)とそれに関連する事項  
 第13回 視覚(視野)とそれに関連する事項  
 第14回 視覚(両眼視・色覚)とそれに関連する事項 全身疾患と関連する眼疾患  
 第15回 眼科でよくみられる疾患

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用 パソコン、スライド

## 8. 評価方法

歯・口腔 筆記試験  
 耳鼻咽喉 筆記試験9割 レポート1割  
 皮膚 試験ないしはレポートで評価する  
 眼 筆記試験

## 9. 教科書

歯・口腔 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(15)歯・口腔(医学書院)  
 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(14)耳鼻咽喉(医学書院)  
 皮膚 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(12)皮膚(医学書院)  
 眼 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13)眼(医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

歯・口腔 口の健康と機能は、全身の健康に大きく関わります。理解を深めて、自分自身と、これから関わる方々の健康を守って下さい。

耳鼻咽喉 耳鼻咽喉科で扱う対象は、身体のなかでも小さな部分ですが、コミュニケーションに必要な器官です。短い講義時間ですが、みみ、はな、のどの機能、疾患について理解してください。

皮膚 看護師として仕事を始めると、患者様の皮膚を見る機会が多く訪れます。講義では臨床写真を中心に講義し、なるべく実際の現場で役立てればと思います。

眼 ヒトが外界から情報を得るうえで眼は重要な器官ですが、眼について学べる機会はかなり限られています。講義では多くのイラストや写真を使ってできるだけわかりやすく説明しますので、眼について学ぶこの貴重な機会をしっかりと生かすようにしてください。

1. 授業科目 病態治療論Ⅶ (リハビリテーション)

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

目的 1. リハビリテーションの基本的な考え方について理解する

2. リハビリテーションにおける看護師の役割を理解する

目標 1. リハビリテーション看護を実践するための知識と技術を習得する

2. リハビリテーションにおける基本的な評価と治療の流れを理解できる

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 リハビリテーションの歴史と基本的な考え方について

第2回 医療チームにおける看護師の役割とADLについて

第3回 リハビリテーションにおける評価

第4回 松葉杖歩行と歩行介助について (実技) 到達度 I

第5回 障害別リハビリテーションの実際①

第6回 関節可動域訓練について (実技) 到達度 I

第7回 障害別リハビリテーションの実際②

第8回 まとめ

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

マイク

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

1. 実際に役立つ知識と技術 2. 国家試験

この2つを意識して分かりやすい講義ができるように頑張ります。

**1. 授業科目** 栄養学と代謝**2. 担当者名****3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目的**

- ・人体を構成する成分や生命維持に必要な物質の構造・性質を学び、人が生きて活動している様子を化学の知識で理解する
- ・健康維持のため栄養の意義と疾病に合わせた食事療法の重要性を理解する
- ・栄養管理を行う上で看護師の役割を理解

**目標**

- ・医療を担うチームの一員である看護師が、臨床の場で活用できる生化学の知識を身につける
- ・栄養素の役割を理解する
- ・栄養所要量と必要エネルギーの算出について理解する
- ・ライフステージ別の食事管理について理解する
- ・栄養状態のアセスメントについて理解する
- ・疾病別食事療法について理解する

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 生命の維持と代謝
- 第2回 糖質代謝①
- 第3回 糖質代謝②
- 第4回 脂質代謝①
- 第5回 脂質代謝②
- 第6回 タンパク質・アミノ酸代謝
- 第7回 エネルギー代謝
- 第8回 栄養素の種類と働き
- 第9回 食物の消化と栄養素の吸収・代謝
- 第10回 体内のエネルギーバランス、食品と食事
- 第11回 栄養ケア・マネジメント
- 第12回 ライフステージと栄養：乳児期～高齢期の特徴と栄養摂取の要点
- 第13回 臨床栄養：病院食、栄養補給法(経腸栄養、経静脈栄養)
- 第14回 臨床栄養：疾患・症状別食事療法
- 第15回 臨床栄養：対象者別、病期別の栄養管理、まとめ

**6. 授業形式** 講義形式**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン (PowerPoint)

**8. 評価方法** 筆記試験 (10割)**9. 教科書**

**栄養** 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(3)栄養学 (医学書院)  
**代謝** ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(2)臨床生化学 (メディカ出版)

**10. 参考文献**

**栄養**・臨床病態栄養学 (文光堂) ・検査値に基づいた栄養指導 (チーム医療)  
 ・コメディカルのための静脈・経腸栄養手技マニュアル (南江堂)

**11. 学生へのメッセージ**

**栄養** 病院で行われている栄養管理を通して栄養管理の重要性や看護師の果たす役割を理解した上で、栄養学が身近なものであることを学習していきましょう。

**代謝** 生化学では、人体の生命活動を理解するうえで基本的でかつ重要な内容です。教科書をよく読んで、まず専門用語や化学式に慣れるところから学習を始め、人体内の化学反応から生命現象を理解することを目指しましょう。

## 1. 授業科目 微生物学

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護に必要な細菌学、ウイルス学、免疫学の基礎知識を習得するとともに、感染症に対する予防法および治療法を理解すること

**目標** 細菌およびウイルスの基本構造および性質を理解し、各感染症の特徴を把握するとともに、消毒法および滅菌法を習得する

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 細菌の性質：形態と構造、分裂と増殖
- 第2回 感染症の現状と対策：日和見感染、新興感染症、感染症法
- 第3回 感染症の予防：バイオハザード、滅菌と消毒、皮膚常在菌の培養実習
- 第4回 感染症の診断と治療：細菌学的検査法、化学療法、薬剤耐性
- 第5回 感染に対する生体防御機構：自然免疫、液性免疫
- 第6回 感染に対する生体防御機構：細胞性免疫
- 第7回 細菌感染症：ブドウ球菌、レンサ球菌、ナイセリア属
- 第8回 シュードモナス属、レジオネラ属、大腸菌、赤痢菌
- 第9回 サルモネラ属、セラチア属、ビブリオ科
- 第10回 ヘリコバクター属、バシラス属、ジフテリア属、マイコバクテリウム属
- 第11回 クロストリジウム属、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
- 第12回 ウイルス感染症：DNA ウイルス、ヘルペスウイルス他
- 第13回 RNA ウイルス、インフルエンザウイルス他
- 第14回 フラビウイルス、レトロウイルス他
- 第15回 肝炎ウイルス、プリオン、真菌感染症、原虫感染症

## 6. 授業形式

講義形式（一部、実習を含む）

## 7. 視聴覚機器の活用

ビデオおよびパソコンを使用

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(4)微生物学（医学書院）

## 10. 参考文献

微生物学 250 ポイント(金芳堂)  
国立感染症研究所資料

## 11. 学生へのメッセージ

医療分野だけでなく、日常生活においても役立つ微生物学をやさしく教えます。

## 1. 授業科目 薬理学

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 臨床において、薬物治療の占める割合は非常に大きい。臨床の場で医師、薬剤師と共に薬物治療において看護師の果たす役割は重要であるため、治療に用いられる薬剤がなぜ使用されるのか、どのような治療効果を示すのかを理解する必要がある

**目標** 薬物の基本的な薬理作用を、疾患毎に関連づけて説明できる

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 自己紹介 薬理学基礎知識 I
- 第2回 薬理学基礎知識 II
- 第3回 抗感染症薬 I
- 第4回 抗感染症薬 II
- 第5回 抗がん剤、免疫治療薬
- 第6回 抗アレルギー剤、抗炎症薬
- 第7回 抹消での神経活動に作用する薬
- 第8回 中枢神経に作用する薬
- 第9回 循環器に作用する薬 I
- 第10回 循環器に作用する薬 II、呼吸器に作用する薬
- 第11回 消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬、ホルモン
- 第12回 ビタミン剤、皮膚科用薬、眼科用薬
- 第13回 救急の際に使用される薬剤
- 第14回 漢方薬、消毒剤
- 第15回 輸液製剤、輸血材

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎基礎 疾病の成り立ちと回復の促進(3)薬理学 (医学書院)

## 10. 参考文献

看護学テキスト NiCE 薬理学 (南江堂)

今日の治療薬 (南江堂)

## 11. 学生へのメッセージ

よりよい学習のために、薬の作用、体内動態をよく理解することが重要です。多数の医薬品名が出てきますが、しっかり予習復習してください。

**1. 授業科目 医療概論**

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 1年次 単位数：1 時間数：15

**4. 学習目的・目標**

**目的** 医学・医療についての全体的な視点・視野を獲得する。医療と看護の関係や、医療従事者として何が必要であり、求められているかを考える

**目標** 医療全般についての大略的な知識を得ることにより、今後の個々の学習の意味を理解し、基本的な学習の姿勢を身につける

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 第1章 生きることと死ぬこと

第2回 第3章 保健・医療・介護①

第3回 第3章 保健・医療・介護②

第4回 第3章 保健・医療・介護③

第5回 第4章 医療と社会

第6回 第5章 医療経済学と医療政策

第7回 第2章 医学と医療①

第8回 第2章 医学と医療②

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン (PowerPoint)

**8. 評価方法**

小レポート課題

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(1)医療概論 (医学書院)

**10. 参考文献**

講義中に適宜紹介

**11. 学生へのメッセージ**

## 1. 授業科目 公衆衛生学

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 人々の健康の保持増進や疾病予防に関連する環境・社会的要因を理解し、人々の生命・生活を守るための基盤となる考え方について学ぶ

- 目標**
1. 人々の健康を守るための概念やその考え方を理解する
  2. 人々を取り巻く自然環境や健康にもたらす影響について理解する
  3. 保健統計の意義や疫学の考え方を理解する
  4. 健康の保持・増進のための方策について理解する

## 5. 授業内容

[\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 公衆衛生とは・公衆衛生の活動対象
- 第2回 公衆衛生のしくみ
- 第3回 集団の健康をとらえるための手法①
- 第4回 集団の健康をとらえるための手法②
- 第5回 環境と健康①
- 第6回 環境と健康②
- 第7回 感染症とその予防①
- 第8回 感染症とその予防②
- 第9回 母子保健
- 第10回 成人保健
- 第11回 高齢者保健・歯科保健
- 第12回 精神保健・障害者保健・難病保健
- 第13回 学校保健
- 第14回 産業保健
- 第15回 健康危機管理・災害保健

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験(6割)、小テスト(4割)

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(2)公衆衛生 (医学書院)

## 10. 参考文献

講義中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

これまでの学習を活かしつつ、新たな視点や考え方を獲得してほしい

## 1. 授業科目 社会福祉

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数： 2 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 現代社会に不可欠な仕組みの一つとしての「社会福祉」の意義や役割を理解し、自分の生活や看護の仕事との関連性を考える力を養う

**目標** 1. 社会福祉成立の背景と現代の位置づけ  
2. 社会福祉制度の基礎理解  
3. 社会福祉と看護の仕事との関連性の理解

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 イントロダクション 「社会福祉」と「慈善」等との関係
- 第2回 社会福祉の成立の背景とは？
- 第3回 社会福祉の制度とサービス①生活保護の原理と原則
- 第4回 社会福祉の制度とサービス②生活保護の現実的課題
- 第5回 社会福祉の制度とサービス③児童福祉と虐待問題
- 第6回 社会福祉の制度とサービス④医療のなかの虐待問題
- 第7回 社会福祉の制度とサービス⑤老人福祉と少子高齢問題
- 第8回 社会福祉の制度とサービス⑥老人ホーム等の役割
- 第9回 社会福祉の制度とサービス⑦老人保健法と高齢者医療制度
- 第10回 社会福祉の制度とサービス⑧介護保険法について
- 第11回 社会福祉の制度とサービス⑨「障害」とは何か
- 第12回 社会福祉の制度とサービス⑩障害者福祉の法体系と手帳制度
- 第13回 社会福祉の制度とサービス⑪新しい障害としての発達障害
- 第14回 社会福祉の制度とサービス⑫障害者総合支援法と利用者負担
- 第15回 講義またはまとめ

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

VTRかDVD

## 8. 評価方法

筆記試験85%、毎回の提出物15%

## 9. 教科書

山縣・岡田編『よくわかる社会福祉(最新版)』(ミネルヴァ書房)

## 10. 参考文献

社会福祉小六法(ミネルヴァ書房)

## 11. 学生へのメッセージ

授業では色々な事を想像しながら受講し参加意欲を持って下さい  
授業内で様々な疑問を持つ事を期待します

## 1. 授業科目 関係法規

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：2 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護職員にとって最も重要な法律である保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律について、医療に関する法律である医事法、国民の健康の保持・増進を目的とする保健衛生法、薬務法、社会保険法、福祉法、そして労働条件と職場の安全衛生について定めた労働基準法・労働安全衛生法等の基礎知識を習得する

**目標**

1. 看護がどのような法律に準拠して行われているのか述べることができる
2. 看護を取り巻く多職種の法律について説明できる
3. 国民の健康の保持・増進を目的とする法律を述べることができる
4. 社会福祉の基盤となる法律を述べることができる
5. 労働者の健康を守る法律を説明できる
6. 環境の保全と公害の防止に関する法律を挙げるができる

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 ガイダンス・法とは
- 第2回 看護法とは
- 第3回 医事法とは
- 第4回 看護法・医事法の小テスト・解説 保健衛生法(共通保健法)
- 第5回 保健衛生法(分野別保健法・感染に関する法律)
- 第6回 保健衛生法(食品に関する法等) 保健衛生法の小テスト
- 第7回 薬務法(薬事一般に関する法律等)
- 第8回 社会保険法(費用保障)
- 第9回 社会保険法(年金等) 薬務法・社会保険法の小テスト・解説
- 第10回 福祉法(福祉の基盤・児童分野)
- 第11回 福祉法(高齢分野・障害分野)
- 第12回 福祉法の小テスト・解説 労働法と社会基盤整備
- 第13回 環境法とは
- 第14回 最新の人口静態、動態・その他の統計
- 第15回 最新の人口静態、動態・その他の統計・環境法の小テスト

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(4)看護関係法令(医学書院)

## 10. 参考文献

必要時提示します。

## 11. 学生へのメッセージ

看護師国家試験につながる科目です。ただ単に暗記するだけではなくしっかりと理解をしてほしい。

## 専門分野 66(2100)

## 本校 66(2100)

### 専門分野構築の考え方

**基礎看護学**は、看護の歴史を知り、現代の看護の実際を知り、未来の看護について考える基盤となる。基礎・専門基礎分野で学んだ知識をもとに、地域看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。そして、看護を実践するための基礎的な知識・技術について学ぶこととした。日常生活援助および診療の補助技術について、看護の対象がその人らしい生活を営めるように支援できる能力を養うことを目的とした。また、看護実践能力を強化するため演習を多く取り入れた。

**成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護論**は基礎、専門基礎分野ならびに基礎看護学で学んだ知識をもとに、医療をとりまく環境、看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。地域で生活する対象が、医療施設、福祉施設などで療養し、再び地域での生活に向けて回復あるいは安寧な死を迎える過程を学ぶ。

そして看護を実践するための基礎的な知識・技術について学び、対象がその人らしい生活を営めるよう支援できる能力を養うことを目的とした。

解剖生理学から病態治療論、続けて看護学と順を追って学べるように配置した。

「成人看護学」では経過別看護、手術療法や透析療法をはじめとする治療処置場面での看護を学ぶ。

「老年看護学」では生活機能の観点からアセスメントし看護を展開すること、「精神看護学」では精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を展開できるような内容を含み、実習前に看護展開の演習を行う。

**地域・在宅看護論**は地域・在宅で生活するすべての人々に対する看護のための学習内容を幅広く位置づけた。

**発達段階と健康状態別看護**は、健康状態別看護の実践力をつける目的として設定した。教育内容の重複や教育内容の共通部分を取り出し、「薬物療法と看護」「各発達段階における手術と看護」「エンド・オブ・ライフ・ケア」「ファミリーケア」「ヘルスプロモーション」と学生の「おや?」という気づきを大切にする「問題解決思考の活用と実践Ⅰ」を設定した。

**看護の統合と実践**は、基礎、専門基礎分野、専門分野で学んだ知識をもとに、医療をとりまく環境、看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。そして看護を実践するための基礎的な知識・技術について学び、対象がその人らしい生活を営めるよう支援できる能力を養うことを目的とした。看護実践の場面において必要な「医療安全」「問題解決思考の実践Ⅱ」「国際看護と災害看護」を科目とした。

**臨地実習**は、初学年から看護の対象者は地域で生活をする人であることを理解できるように設定した。1つは基礎看護学実習の「看護の場を知る実習」、もう1つは地域・在宅看護論実習の「地域で生活する人と看護実習」である。地域、医療施設、福祉施設等人々の暮らしには多様性があることを学び、看護につなげていく。さまざまな生活の場、看護の場を知ること看護について興味関心を持つ。

また、基礎看護学実習では、対象がよりよく生活できるようにするため日常生活援助を見学、実施し習得する。成人・老年看護学実習の「さまざまな看護を知る実習」では、手術療法や透析療法をはじめとする治療処置場面での看護の役割見学を通して学ぶ。

成人・老年看護学実習では対象の発達段階、発達課題ならびに健康段階に応じた看護を実践する。特に高齢者の看護では認知機能、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する。精神看護学では精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を展開できるような内容を含み、実習前に看護展開の演習を行う。

**地域・在宅看護論**は地域・在宅で生活するすべての人々に対する看護のための学習内容を幅広く位置づけた。各領域の臨地実習において、医療チームの一員としての役割を学ぶ、保健医療福祉との連携、協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とする。

教育内容	授業科目	単位	時間
基礎看護学 16(465)	基礎看護学概論	1	30
	看護管理・看護理論	1	30
	看護研究	1	30
	基本援助技術Ⅰ	1	30
	基本援助技術Ⅱ	1	30
	基本援助技術Ⅲ	1	30
	生活援助技術Ⅰ	1	30
	生活援助技術Ⅱ	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	看護過程	1	30
	臨床看護学総論	1	15
	看護の場を知る実習	1	30
	基礎看護学実習Ⅰ	2	60
基礎看護学実習Ⅱ	2	60	
成人・老年看護学 13(440)	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ(呼吸器・循環器)	1	30
	成人看護学援助論Ⅱ(腎泌尿器・内分泌代謝)	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ(脳神経・運動器)	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ(消化器・血液・造血器・免疫アレルギー)	1	30
	老年看護学概論	1	30
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30
	さまざまな看護を知る実習	1	40
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80	
小児看護学 5(170)	小児看護学概論	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30
	小児看護学実習	2	80
母性看護学 5(170)	母性看護学概論	1	30
	母性看護学援助論Ⅰ	1	30
	母性看護学援助論Ⅱ	1	30
	母性看護学実習	2	80
精神看護学 5(170)	精神看護学概論	1	30
	精神看護学援助論Ⅰ	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30
	精神看護学実習	2	80

地域・在宅看護論 10(320)	地域・在宅看護概論	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30
	地域における暮らしと環境	1	30
	地域で生活する人と看護	1	30
	生活する人を知る実習	1	30
	地域で生活する人と看護実習	2	60
	地域・在宅看護論実習	2	80
発達段階と健康状態別看護 6(180)	問題解決思考の活用と実践Ⅰ	1	30
	薬物療法と看護	1	30
	各発達段階における手術と看護	1	30
	エンド・オブ・ライフ・ケア	1	30
	ファミリーケア	1	30
	ヘルスプロモーション	1	30
看護の統合と実践 6(185)	医療安全	1	30
	問題解決思考の活用と実践Ⅱ	2	45
	国際看護と災害看護	1	30
	看護の統合実習	2	80

## 基礎看護学

目的	対象である人間を統合的に理解し看護を実践するために基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 看護の本質、理論を学び、社会の変化に対応できる思考の育成、看護の基本概念をとらえる。</li><li>2. 社会情勢が変化してく中で、看護の位置づけと専門性について学ぶ。</li><li>3. 看護の対象である人間を人権意識に裏打ちされた感性で、総合的に理解する。</li><li>4. 看護実践の基礎となる基礎看護技術を理論的に理解し身につける。</li><li>5. 障害、疾患を持つ人に対して基本的援助を学ぶ。</li><li>6. 関連職種間の調整に必要なマネジメントの基本を理解する。</li></ol>

## 1. 授業科目 基礎看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目標** 看護とは何か、看護師とはどのような職業なのかを考えることができる  
看護における倫理について考えることができる  
看護の役割、機能について考えることができる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 看護を学ぶにあたって 講義の進め方 看護とは 看護の本質
- 第2回 看護の対象の理解 : 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味
- 第3回 看護の対象の理解 : 生涯発達し続ける存在 人間の「暮らし」の理解
- 第4回 近代看護の祖 ナイチンゲール : ナイチンゲールの生涯 看護の定義
- 第5回 看護職の養成制度 : 看護基礎教育と養成制度 養成制度の課題
- 第6回 国民の健康状態と生活 : 健康のとらえ方 国民の健康状態
- 第7回 看護の提供者 : 職業としての看護
- 第8回 看護における倫理 : 現代社会と倫理
- 第9回 看護実践における倫理問題 : 取り組むためのしくみ
- 第10回 事例検討 : 各自で調べ、グループで検討
- 第11回 看護の提供の仕組み(1) サービスとしての看護
- 第12回 看護の提供の仕組み(2) 看護サービスの場 看護をめぐる制度と政策
- 第13回 医療安全と医療の質保証 : 医療事故の増加 医療事故防止対策
- 第14回 広がる看護活動の場 : 国際化と看護 災害時における看護
- 第15回 まとめ

### 6. 授業形式

講義、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD

### 8. 評価方法

筆記試験 70点、課題レポート 30点

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1)看護学概論 (医学書院)  
看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)  
看護覚え書 (現代社)  
よくわかる看護職の倫理綱領 (照林社)

### 10. 参考文献

授業にて紹介します

### 11. 学生へのメッセージ

本校で最初に学ぶ専門科目です。「看護とは何なのか」「看護師とはどのような職業なのか」を一緒に考え、看護学に対して興味関心を高めていきましょう。皆さんが自らの看護観を築ききっかけになってほしいと願っています。

1. 授業科目 **看護管理・看護理論**

2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 看護理論の基本的な考え方を学び、患者の言動や行動の背景にある意味を考える視点を身につける

- 目標**
1. 看護理論の基本概念および主要理論(ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイ、ペプロウ、トラベルビー、ラザルス、ベナー)について説明できる
  2. 患者を生活者として捉え、生活・セルフケア・適応・対人関係・ストレスの視点から患者理解の要点を説明できる
  3. 学習した理論を看護場面の事例に基づいて説明できる
  4. 看護管理の基本を学び、専門職としての責任ある行動について理解する
  5. 看護管理の基本を学び、組織の中で責任ある行動について理解する
  6. チーム医療及び多職種との協働の中でメンバーシップ及びリーダーシップを理解する

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 看護理論とは何か(グループワーク)
- 第2回 ナイチンゲール① 人間・環境・健康(グループワーク)
- 第3回 ナイチンゲール② 看護とは何か( )
- 第4回 ヘンダーソン：基本的ニード( )
- 第5回 オレム：セルフケア理論( )
- 第6回 ロイ：適応看護モデル( )
- 第7回 これから臨床で必要となる理論：ペプロウ／トラベルビー／ラザルス／ベナー( )
- 第8回 理論を用いた事例検討・グループ発表・まとめ
- 第9回 看護とマネジメント(看護職に求められるマネジメント)
- 第10回 看護ケアのマネジメント(患者の権利・医療安全 他)
- 第11回 看護のキャリア形成
- 第12回 マネジメントの四資源と看護教育
- 第13回 マネジメントに必要な知識(1)
- 第14回 マネジメントに必要な知識(2)
- 第15回 看護を取り巻く諸制度・社会人になるということ

6. 授業形式

**看護管理** 講義 グループワーク レポート

**看護理論** 講義・演習：第2回以降の授業では課題をグループワークで共有し、講義をするという流れとします

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

**看護管理** 筆記試験

**看護理論** 筆記試験4割、レポート課題1割

9. 教科書

**看護管理** 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1)看護管理(医学書院)

**看護理論** 城ヶ端初子：誰でもわかる看護理論(サイオ出版) 看護覚え書(現代社)

10. 参考文献

**看護管理** 看護学概論 看護関係法令 国民衛生の動向 看護職の倫理綱領など

**看護理論** 授業時、適宜紹介する

11. 学生へのメッセージ

**看護管理** 看護管理に必要な能力はみなさんが新人看護師になってからすぐに必要な能力が多いです。質の高い看護実践に向けて一緒に学びましょう。

**看護理論** 看護理論は、患者さんの言葉や行動の背景にある思いを考えるためのヒントです。さまざまな視点を知り、実習や将来の看護実践に役立てましょう。

## 1. 授業科目 看護研究

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護領域の基本的な考え方と研究の進め方を理解し、文献の検索・読解、研究方法(量的研究・質的研究)の基礎を学ぶ

- 目標**
1. 看護研究の目的と意義を説明できる
  2. 研究テーマ・研究疑問を理解できる
  3. 文献検索の基本方法を理解し実施できる
  4. 文献の要点を読み取り要約できる
  5. 量的研究と質的研究の特徴を説明できる
  6. 研究計画書を作成できる
  7. 学会参加を通して看護研究の意義を理解できる

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 看護研究における意義
- 第2回 研究のはじめの一步：研究疑問(リサーチクエスション)
- 第3回 研究の流れ：研究の構成要素とプロセス
- 第4回 文献検討① 文献検討の意義と文献検索方法
- 第5回 文献検討② 文献の読み方(文献クリティーク)
- 第6回 文献検討③ 文献のまとめ方(演習・グループワーク)
- 第7回 研究デザイン：量的研究と質的研究
- 第8回 量的研究の方法：アンケート作成とデータ分析方法
- 第9回 質的研究の方法：インタビューとデータ分析方法
- 第10回 看護研究における倫理
- 第11回 研究計画書の作成：背景と目的、研究方法、倫理的配慮(演習)
- 第12回 研究計画書の発表、まとめ(演習・グループワーク)
- 第13回 滋賀県看護学会
- 第14回 滋賀県看護学会
- 第15回 学会における学びの共有とまとめ(グループワーク)

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験 6割、レポート課題 4割(文献まとめ、研究計画書、学会レポート)

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)

## 10. 参考文献

授業時、適宜紹介する。

## 11. 学生へのメッセージ

看護実践は経験だけでなく、科学的根拠に基づく判断が求められます。この授業では、看護研究の基本をやさしく学び、文献の読み方や研究計画書の作成、学会参加を通して、看護研究が現場にどう活かされているかを知り、研究を身近に感じましょう。

## 1. 授業科目 基本援助技術 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 看護技術の基盤が理解できる
2. 対象にとっての良い環境とは何かを考え、環境を整える技術を修得できる
3. 苦痛の緩和、安楽を確保するための技術を習得できる
4. 活動・睡眠・休息の援助が理解できる
5. 基本的な感染防止の技術を習得できる

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回	看護技術を学ぶにあたって 看護技術の特徴	
第2回	環境とは (物理的環境・対人的環境・管理、教育的環境) 環境調整の援助の基礎知識	
第3回	基本的活動の基礎知識 ボディメカニクスとは	
第4/5回	環境調整の援助の実際(ベッドメイキングは技術確認項目) <b>演習</b> ：シーツのたたみ方・広げ方 ベッドメイキング	到達度Ⅱ
第6回	安楽な体位の調整 褥瘡防止ケア 体位保持 (ポジショニング)	
第7回	<b>演習</b> ：ボディメカニクスを使った体位変換	到達度Ⅰ
第8回	<b>演習</b> ：リネン交換 (臥床患者のリネン交換)	到達度Ⅰ
第9/10回	<b>演習</b> ：環境整備 (3年次生と合同演習)	到達度Ⅰ
第11回	講義と <b>演習</b> ：移乗・移送 (車椅子・ストレッチャー)	到達度Ⅰ
第12回	感染防止の基礎知識	
第13/14回	<b>演習</b> ：スタンダードプリコーション・防護用具の選択・着脱、取扱い 感染物の分別・無菌操作	到達度Ⅰ
第15回	睡眠と休息の基礎知識	

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義・学内演習、課題学習

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン (PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ (医学書院)  
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ (医学書院)  
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

### 10. 参考文献

ナイチンゲール看護覚え書 (現代社)

### 11. 学生へのメッセージ

看護学生生活初めての看護技術となります。  
 患者さんの安全と安楽を考えながら技術を学んでください。

## 1. 授業科目 基本援助技術Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 診察に必要な検査それに伴う治療の基本を理解し、患者心理に配慮した技術の習得ができる
2. 与薬の定義について理解し、対象に対して安全かつ正確にできる知識、技術を習得する

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 与薬の基礎知識、検体の採取と取扱い(血液、尿、便、痰)

第2回 創傷管理の基本知識

第3回 演習：創洗浄・保護・包帯法

到達度Ⅱ

第4回 採血を実施するための基礎知識

第5回 演習：採血の実施

到達度Ⅱ

第6回 演習： 〃

第7回 注射法を実施するための知識

第8回 演習：注射の準備(アンプルカット・注射器の取り扱い)

第9回 演習：皮下注射・筋肉注射の実施

到達度Ⅱ

第10回 静脈内注射の基礎知識

第11回 演習：点滴静脈内注射の実施・管理

到達度Ⅱ

第12回 演習：輸液ポンプの実施・管理

到達度Ⅱ

第13回 演習：薬剤のばく露予防策の実施

到達度Ⅱ

第14回 輸血の基礎知識

第15回 演習：輸血の管理

到達度Ⅱ

※演習は必修です。必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(パワーポイント)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

系統看護学講座 別巻 臨床検査(医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

看護技術は確かな技術をもって安全に実施しなければなりません。看護師としての責任を意識した態度で臨んでください。

## 1. 授業科目 基本援助技術Ⅲ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 治療、処置を受ける患者の看護の実際を学び、それぞれの器機の取り扱いの実際を学ぶ  
救命救急処置の実際を学ぶ

**目標** 治療、処置を受ける患者の看護の実際がわかる  
医療機器の取り扱いの実際がわかる  
患者の心理を理解し、検査や治療が正確に、適切に実施できる知識、技術を習得することができる  
一次救命の適切な知識と実施方法がわかる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回	医療機器の概要と実際(検体検査)	
第2回	医療機器の実際(検査のための医療機器・器具使用時の看護)	
第3回	医療機器の実際(医療の補助を行う医療機器と看護)	到達度Ⅰ
第4・5回	<b>演習</b> ：酸素吸入療法 酸素ポンベの取り扱い ネブライザーを用いた気道内加湿 口腔内吸引 鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレナージ	到達度Ⅰ・Ⅱ
第6回	生体検査モニタリングの基礎知識	
第7回	診察・検査・処置における技術	
第8回	<b>演習</b> ：心電図(12誘導)	到達度Ⅱ
第9回	<b>演習</b> ：検査を受ける患者の看護(介助)	到達度Ⅰ
第10回	講義：非経口的栄養摂取の援助	
第11回	講義・ <b>演習</b> ：経鼻経管チューブの挿入	到達度Ⅰ・Ⅱ
第12回	<b>演習</b> ：経管・経腸栄養の注入の実際と胃ろうの理解と看護	到達度Ⅰ・Ⅱ
第13回	講義・ <b>演習</b> 止血法	到達度Ⅰ
第14・15回	一時救急処置技術(BLS) 緊急時の応援要請(研修2コマ)	到達度Ⅰ

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義 演習 グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

### 10. 参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論(医学書院)

### 11. 学生へのメッセージ

様々な看護技術を実際に体験していきます。方法のみでなく患者さんの気持ちを考えながら実施していきましょう。

## 1. 授業科目 生活援助技術 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

目標 人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解し援助技術を習得する

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第 1 回 清潔援助の意義、基礎知識  
～自分の生活における清潔について振り返ってみよう～
- 第 2 回 衣生活の基礎知識
- 第 3 回 演習：寝衣交換（研修 1 コマ使用） 到達度 I
- 第 4 回 清拭援助の方法・選択の視点  
清拭基礎知識
- 第 5 回 演習：こちよ湯の温度、こちよ拭き方（研修 1 コマ使用）  
タオルの取り扱い（ウオッシュクロス、フェイスタオル、バスタオル）
- 第 6 回 全身清拭援助計画立案 入浴介助
- 第 7 回 演習：全身清拭（研修 1 コマ使用） 到達度 I
- 第 8 回 演習：全身清拭実施・計画修正（研修 1 コマ使用）
- 第 9 回 手浴・足浴基礎知識
- 第 10 回 演習：手浴足浴（研修 1 コマ使用） 到達度 I
- 第 11 回 洗髪基礎知識 入浴が生体に及ぼす影響
- 第 12 回 演習：洗髪時の体位・シャワーの当て方（研修 1 コマ使用） 到達度 I
- 第 13 回 演習：洗髪時の体位・シャワーの当て方
- 第 14 回 陰部洗浄の基礎知識
- 第 15 回 演習：陰部洗浄（研修 1 コマ使用） 到達度 I

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ（医学書院）  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

### 10. 参考文献

看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）

### 11. 学生へのメッセージ

皆さんが当たり前に行っていることですが、他者に実施するのは意外に難しいです。患者体験からも多くの学びがあり、それを活用しながら看護師として心地良い援助を提供するには、どのような配慮や技術が必要なのかを一緒に考えていきましょう。

## 1. 授業科目 生活援助技術Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

目標 人間にとっての栄養と排泄の意義を理解し援助技術を習得する

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 食事の基礎知識

第2回 食に関するアセスメント 1

第3回 食に関するアセスメント 2

第4回 食に関する援助について

第5・6回 演習：食事介助・口腔ケア

到達度Ⅰ

第7回 排泄に関する基礎知識・アセスメント

第8回 自然排尿・自然排便の援助

第9回 演習：便器・尿器の当て方

到達度Ⅰ

第10回 排泄障害時の援助について〔導尿・バルーンカテーテル〕

第11回 演習：導尿

到達度Ⅰ

第12回 演習：導尿

第13回 排泄障害時の援助について〔浣腸・摘便〕

第14回 演習：浣腸・摘便

到達度Ⅰ

第15回 演習：浣腸・摘便

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験 課題学習

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

### 10. 参考文献

看護がみえる vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア)

看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術篇 (サイオ出版)

### 11. 学生へのメッセージ

人間にとっての食と排泄の大切さ、エビデンスに基づいた援助技術の重要性を一緒に学んでいきたい  
と思います。十分な事前・事後学習をして臨んでください。



## 1. 授業科目 看護過程

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

**目標** 看護過程の必要性を理解できる

看護過程の構成要素や思考のプロセスが理解できる

健康上の課題を解決するための計画が立案できる

村上智子さんの事例を通して以下の学習ができる

基礎情報を収集し常在条件を把握することができる

事例の情報を S、O で記載することができる

基本的看護の構成要素ごとに解釈分析できる

基本的看護の構成要素ごとに、充足、未充足を判断できる

基本的看護の構成要素ごとに看護上の問題を抽出することができる

看護計画を立案できる

実施場面のビデオを見て期待される結果に到達できたか評価できる

看護計画を修正できる

## 5. 授業内容

〔\* 1回は1コマ (90分) の授業です〕

第1回 看護過程の定義 看護過程の構成要素

第2回 基盤となる考え方 (クリティカルシンキング、リフレクション) 事実? 意見?

第3回 情報収集 (ヘンダーソンの3つの視点) DVD視聴

第4回 DVD視聴 村上さんの様子を S と O で記載してみる 常在条件について

第5回 病理的状態について

第6回 基本的看護の構成要素について (充足状態・未充足状態)

第7回 村上智子さんの栄養について考えよう

第8回 村上智子さんの排泄について考えよう

第9回 村上智子さんの活動について考えよう

第10回 関連図について

第11回 関連図について

第12回 看護上の問題を明確にする

第13回 看護計画を記載しよう

第14回 看護計画を記載しよう

第15回 実施・評価について

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

## 8. 評価方法

課題3割、筆記試験7割

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I (医学書院)

看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 (ヌーヴェルヒロカワ)

ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト (ヌーヴェルヒロカワ)

## 10. 参考文献

看護過程に沿った対症看護 (Gakken)

看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (メディックメディア)

## 11. 学生へのメッセージ

書き方ではなく、考え方を学ぼう。村上さんの健康上の問題の解決に向けてできることを考えよう。

## 1. 授業科目 臨床看護学総論

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目標

1. 健康へのニーズをもつ生活者と家族について理解できる
2. 健康生活と看護について理解できる
3. ライフサイクルと発達課題を踏まえた看護が理解できる
4. 経過に基づく患者の看護について理解できる
5. 主要症状を示す患者の看護を理解できる
6. 治療・処置を受けている患者の看護を理解できる

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 ライフサイクルからとらえた患者と家族の健康上のニーズと看護
- 第2回 家族の機能からとらえた患者と家族の健康上のニーズ及びケアサービスの実際
- 第3回 健康の定義について理解し対象に関わる職種の役割について理解を深め、健康の維持・増進に向けた援助が理解できる
- 第4回 健康状態の経過に基づく看護 急性期・回復期・慢性期・終末期における看護
- 第5回 主要症状を示す患者の看護① 呼吸・循環・栄養・代謝に関連する症状を示す患者への看護
- 第6回 主要症状を示す患者の看護② 活動・排泄・コーピング・安楽に関連する患者への看護
- 第7回 治療・処置を受ける患者の看護① 輸液・安静療法を受ける患者への看護
- 第8回 治療・処置を受ける患者の看護② 化学療法・手術療法を受ける患者への看護

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パワーポイント

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論 (医学書院)

## 10. 参考文献

授業内で紹介します

## 11. 学生へのメッセージ

看護の対象を発達段階でとらえ、各段階の特徴と多様な健康上のニーズをもつ人々に、個別性のある看護の実際を学び、履修した看護技術・知識をベースに、柔軟な思考をもって看護実践につなげる事が出来るように学んで頂きたいと思います。

## 基礎看護学実習

### 看護の場を知る実習 1(30)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として、適切かつ責任ある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる</li> <li>・看護活動の場にはどのような場所があり、その活動の場の特徴と看護師の役割を知る</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の看護師に追従し、各施設の特徴や看護師の役割を見学して学ぶ</li> </ul>

### 基礎看護学実習 I 2(60)

目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における看護活動の場の実際を理解することができる</li> <li>2. 患者を取り巻く環境および療養生活が理解することができる             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 物理的な環境について、理解することができる</li> <li>2) 人的環境について、理解することができる</li> <li>3) 環境における医療安全と感染管理について、知ることができる</li> </ol> </li> <li>3. 患者の安全・安楽な環境について考え、療養環境を整えることができる</li> <li>4. バイタルサイン測定を原理・原則に基づき正確に測定することができる</li> <li>5. バイタルサイン測定を実施し、異常の有無について、考えることができる</li> <li>6. 見学・実施したことを客観的に振り返ることができる</li> <li>7. 患者－看護師関係を築くための態度について、考えることができる</li> </ol>
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、病院や援助の見学を通して、看護活動の実際の間を理解する</li> <li>2. 日常生活援助を見学し、患者の生活環境及び対象の療養生活を学ぶ</li> <li>3. 既習の看護技術（環境整備・バイタルサイン測定など）は看護師の指導のもとに実施する</li> </ol>

### 基礎看護学実習 II 2(60)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者理解を深め、必要な援助とは何かを考える。</li> <li>・看護の視点で観察することができる。</li> <li>・実施した結果を患者にあったものに修正する方法がわかる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者を受持ち、意図的な情報収集を行う</li> <li>・得た情報から、その人に必要な援助を考える</li> <li>・必要な援助に対し目標を考える</li> <li>・援助計画を立案し、看護援助を実施する</li> <li>・実施した結果が目標に適したのか評価し、計画の修正をする</li> </ul>

# 成人・老年看護学

目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・成人期にある対象を総合的に理解し、その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ</li><li>・老年期にある対象の特徴を理解し、健康段階に応じた看護の基礎的な知識・技術・態度を学ぶ</li></ul>
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴について学ぶ</li><li>2. 成人期の生活と健康に関する基本的な知識を学ぶ</li><li>3. 成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本の基本的な考え方や方法を学ぶ</li><li>4. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化の特徴が理解できる</li><li>5. 老年期にある対象の健康問題と医療・保健・福祉の動向と現状が理解できる</li><li>6. 老年期の看護の特徴と役割が理解できる</li><li>7. 老年期に起こりやすい日常生活上の障害が理解できる</li><li>8. 老年期にある対象とその家族への援助方法を理解し、実践することができる</li><li>9. 対象の生活史・価値観を尊重した態度を養うことができる</li><li>10. 対象との関わりを通して自己の老年観を養う</li></ol>

**1. 授業科目** 成人看護学概論

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 1年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. 成人期にある対象の特徴について、理解することができる
  2. 生活習慣が健康に及ぼす影響について、理解することができる
  3. 健康な生活を送る対象に関する保健活動について、理解することができる
  4. 健康障害を持つ対象やその家族に対する基本的な看護について、理解することができる

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 成人看護学の対象とは
- 第2回 発達段階と発達課題
- 第3回 青年期、壮・中年期の特徴
- 第4回 生活と健康問題・生活と健康を守り、育むシステム
- 第5回 人口静態・動態と成人の疾病
- 第6回 生活と健康を守り、育むシステム
- 第7回 危機理論およびストレス、ストレスコーピング理論と看護
- 第8回 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護
- 第9回 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護
- 第10回 障害の受容と看護・障害を持ちながらの生活とリハビリテーション
- 第11回 自己効力感と看護・退院を支援する看護
- 第12回 人生の最期のときを支える看護
- 第13回 DVD鑑賞
- 第14回 DVD鑑賞
- 第15回 まとめ

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

必要時は指示する

**8. 評価方法**

筆記試験および提出物（レポート等）により評価する

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(1)成人看護学総論（医学書院）  
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

**10. 参考文献**

講義中に提示する

**11. 学生へのメッセージ**

人間の成長・発達において最も長い期間であり、さまざまな意味で対象となる人が最も多い『成人期』を学習します。「成人って何?」「大人って何?」「成人・大人を看護するってどういうこと?」を、皆さんと一緒に学びたいと思います。

## 1. 授業科目 成人看護学援助論 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的 呼吸器** 呼吸状態を正しくアセスメントできるようになる

**目標 呼吸器** 呼吸器疾患患者の特徴と看護について理解することができる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 呼吸器の看護を学ぶにあたって
- 第2回 症状に対する看護
- 第3回 肺炎、COPD 患者の看護
- 第4回 肺癌患者の看護
- 第5回 胸腔ドレナージを受ける患者の看護
- 第6回 気管切開を受ける患者・気管挿管を受ける患者の看護
- 第7回 人工呼吸器を装着している患者の看護
- 第8回 循環器のおもな症状・観察
- 第9回 心不全患者の看護
- 第10回 虚血性心疾患患者の看護
- 第11回 心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の看護
- 第12回 心臓リハビリテーションと看護、動脈系疾患患者の看護
- 第13回 不整脈患者の看護
- 第14回 循環器疾患患者への退院指導の実践
- 第15回 まとめ

### 6. 授業形式

**呼吸器**：講義、要点をまとめたプリントを使用  
**循環器**：講義、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint 他)

### 8. 評価方法

**呼吸器**：筆記試験  
**循環器**：筆記試験 8 割、課題 2 割

### 9. 教科書

**呼吸器**：系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器 (医学書院)  
**循環器**：系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3)循環器 (医学書院)  
病気がみえる vol.2 循環器 (メディックメディア)

### 10. 参考文献

病気がみえる vol.4 呼吸器 (メディックメディア)

### 11. 学生へのメッセージ

呼吸器の解剖生理を復習しておいてください。また、講義の進度は早いので体調を整えて講義に臨んでください。学生の皆さんに会えることを楽しみにしています。

## 1. 授業科目 成人看護学援助論Ⅱ

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 内分泌** 内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴を理解し疾患が生活に与える影響を踏まえ、その時期に必要な看護を行うことができる。

**腎泌尿器** 腎・泌尿器疾患の特徴を踏まえながら、身体的、社会的な情報を収集し、各個人に適した看護を行うことができる。

- 目標**
1. 内分泌疾患の病態や特徴を理解し、疾患に応じた看護を理解することができる
  2. 糖尿病とともに生きる対象の心理、社会的問題を理解することができる
  3. 糖尿病の病態や合併症の状態に合わせた看護が理解できる
  4. 糖尿病患者が身体の状態を理解し、対処するための患者教育、支援が理解できる  
(インスリン注射、血糖測定を含む)
  5. 腎臓の重要性及び特徴を理解し、疾患に応じた看護が出来る。
  6. 透析・腎移植に対する知識を高める。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 下垂体疾患患者の看護
- 第2回 甲状腺疾患患者の看護
- 第3回 副腎疾患患者の看護
- 第4回 糖尿病の病態、診断、検査、メタボリックシンドローム、高尿酸血症について
- 第5回 食事療法、運動療法、薬物療法、糖尿病合併症
- 第6回 疾患の特徴 身体・心理・社会的特徴と糖尿病看護の実際  
合併症を持つ患者の看護、周術期・災害時の看護、糖尿病教室
- 第7回 インスリン療法の援助、血糖自己測定(演習) 到達度Ⅱ
- 第8回 インスリン療法の援助、血糖自己測定(演習) 到達度Ⅱ
- 第9回 尿路感染症疾患患者の看護
- 第10回 前立腺疾患患者の看護
- 第11回 尿路・膀胱疾患患者の看護
- 第12回 糸球体疾患患者の看護(ステロイド・高圧剤を服用する看護含む)
- 第13回 急性・慢性腎不全患者の看護
- 第14回 血液透析・腹膜透析患者の看護
- 第15回 腎移植を受ける患者の看護

※演習は必ず出席すること

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**内分泌** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝 (医学書院)  
**腎泌尿器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器 (医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**内分泌** 慢性疾患としての糖尿病看護に関心を持ってもらえるような内容にしたいと思います。教科書を一読しておいてください。また、各器官から分泌されるホルモンについてどの部位から分泌されるのか教科書等で確認してください。

**腎泌尿器** 腎・泌尿器の構造と機能の復習、及び授業内容に沿って一読しておいてください。

## 1. 授業科目 成人看護学援助論Ⅲ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

- 目的 脳神経** 脳神経系疾患領域における対象への看護実践の為の知識と技術を学ぶ
- 運動器** 症状理解や質の高いケア提供、自立支援、多職種連携について学ぶ
- 目標 脳神経** 脳神経系疾患患者の理解と看護の目的・役割が理解できる
- 脳神経系疾患の症状や障害を持つ患者及び治療を受ける患者に対する看護が理解できる
- 運動器** 運動器疾患患者の特徴と看護について理解することができる

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 医療の動向、患者の特徴、看護の役割、看護の特徴と留意点
- 第2回 症状・障害を持つ患者の看護-1
- 第3回 症状・障害を持つ患者の看護-2
- 第4回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-1
- 第5回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-2
- 第6回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-3
- 第7回 外科的治療・処置を受ける患者の看護-1
- 第8回 外科的治療・処置を受ける患者の看護-2
- 第9回 運動器疾患をもつ患者の特徴、看護の役割
- 第10回 ギプス固定を受ける患者の看護
- 第11回 牽引療法を受ける患者の看護
- 第12回 大腿骨頸部骨折患者の看護
- 第13回 脊髄損傷患者の看護
- 第14回 関節リウマチ患者の看護
- 第15回 運動器疾患に特有な治療・検査と看護

### 6. 授業形式

講義形式

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7)脳・神経 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10)運動器 (医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

**脳神経** 医療・介護・福祉・在宅における看護の対象は、高齢化と何らかのこの領域の問題を抱える方が多いという実情にあります。医療人・看護師を目指す皆さんの一助となる関わりができればと考えます。

**運動器** 運動器の解剖生理を復習しておいてください。看護過程で学んだ事例について復習しておきましょう。

**1. 授業科目** 成人看護学援助論Ⅳ**2. 担当者名****3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30**4. 学習目的・目標**

- 目標**
1. 消化器の特徴をふまえて人間の基本的ニード「食」「排泄」について考えることで消化器疾患患者を理解し、看護の役割を考える
  2. 消化器疾患における症状と病態生理をふまえたうえで、各疾患患者の看護を習得する
  3. 血液・造血器疾患および免疫・アレルギー疾患患者の特徴と看護について、理解することができる
  4. 成人期にある対象の事例を通して、健康状態に応じた看護について理解することができる

**5. 授業内容** [※1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回	医療の動向、消化器疾患をもつ患者の理解	
第2回	症状、検査・治療に対する看護	
第3回	食道・胃・十二指腸疾患患者の看護	
第4回	胆嚢・肝臓・膵臓疾患患者の看護	
第5回	腸・腹膜疾患患者の看護	
第6回	人工肛門造設患者の看護 ストーマ管理 (講義)	
第7回	人工肛門造設患者の看護 ストーマ管理 (演習)	到達度Ⅱ
第8回	基礎知識の確認	成人看護学(4)臨床検査
第9回	自己免疫疾患患者の看護 (SLE)	成人看護学(11)
第10回	造血器疾患看護 (白血病)	成人看護学(4)臨床検査
第11回	事例 (治療検査症状の理解)	成人看護学(4)臨床検査
第12回	事例 (経過の理解)	成人看護学(4)臨床検査
第13回	造血幹細胞移植を受ける患者の看護	成人看護学(4)臨床検査
第14回	闘病体験についてお話を伺う	(日本骨髄バンクより)
第15回	輸血療法を受ける患者の看護 熱傷患者の看護	成人看護学(4)臨床検査 成人看護学(12)

※演習は必ず出席すること

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用****8. 評価方法****消化器** 筆記試験**血液ほか** 筆記試験**9. 教科書****消化器** 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5)消化器 (医学書院)**血液ほか** 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4)血液・造血器 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(12)皮膚 (医学書院)

系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)

**10. 参考文献**

成人看護学 救急看護 (ヌーヴェルヒロカワ)

病気がみえる vol.5 血液 (メディックメディア)

解剖生理学の教科書を随時確認してください

**11. 学生へのメッセージ****消化器** 基本的ニードを理解し全体像を捕らえた看護を一緒に考え、学んでいきたいと思えます。事前に解剖生理学の学習を振り返っておいてください。**血液ほか** 事前に血液・免疫・皮膚に関する解剖生理学の知識をおさらいしておいてください。事例を活用することで、対象の病状を理解し、看護につなげていきましょう。

1. 授業科目 **老年看護学概論**

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標
1. 高齢者の生理的変化の特徴を理解することができる
  2. 高齢者疑似体験を通し、高齢者の生活の困難さを知ることができる
  3. 高齢者の生活の多様性が理解できる
  4. 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる
  5. 高齢者看護の基本が理解できる

5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 高齢者とは
- 第2・3回 **演習：高齢者疑似体験**
- 第4・5回 加齢に伴う変化(身体機能・心理、精神的機能) グループワーク
- 第6回 グループワーク発表
- 第7回 加齢に伴う変化(社会的機能)
- 第8回 高齢者にとっての健康とQOL
- 第9回 高齢者と家族
- 第10回 高齢者を支える制度
- 第11回 高齢者を支える社会資源
- 第12回 高齢者看護の特性
- 第13回 高齢者看護に関わる諸理論・倫理
- 第14回 高齢者のフィジカルアセスメント
- 第15回 まとめ

6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

筆記試験および提出物(レポート等)により評価する

9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害(メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版)  
国民衛生の動向(厚生労働省統計協会)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

高齢者の特徴、高齢者にとっての健康、老いるとはどういうことかを考えていきたいと思います。  
超高齢社会の現状を把握していきましょう。

1. 授業科目 老年看護学援助論 I

2. 担当者名

3. 配当学次等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標**
1. 加齢がもたらす日常生活への影響や障害が理解できる
  2. 持てる力を最大限に活かし、健康維持・増進のための日常生活援助の方法が理解できる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 生活を支える看護
- 第2回 歩行・移動を支える看護
- 第3回 **演習：転倒予防の援助**
- 第4回 食生活を支える看護
- 第5回 清潔・衣生活を支える看護
- 第6・7回 **演習：安全な食事と清潔の援助**
- 第8回 排泄を支える看護
- 第9・10回 **演習：排泄の援助**
- 第11回 活動・休息を支える看護①
- 第12回 活動・休息を支える看護②
- 第13回 活動・休息を支える看護③ グループワーク
- 第14・15回 **演習：レクリエーション**

※演習は必ず出席すること

6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

筆記試験および提出物 (レポート等) により評価する

9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 (メディカ出版)  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

老年期の対象が持つ能力を捉え、可能な限り自立した日常生活を送るための援助の方法を学んでいきたいと思いをします。

1. 授業科目 老年看護学援助論Ⅱ

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標**
1. 高齢者の主な疾病や障害の特徴と治療について理解できる
  2. 高齢者の疾病や障害の現れ方の特徴について理解できる
  3. 治療を受ける高齢者の看護について理解できる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 脱水症・低栄養
- 第2回 掻痒感・痛み・しびれ
- 第3回 感染症
- 第4回 骨粗鬆症・骨折
- 第5回 廃用性症候群・褥瘡
- 第6回 肺炎・慢性閉塞性肺疾患
- 第7回 高血圧・脳卒中
- 第8回 不整脈・心不全
- 第9回 認知症のある高齢者の看護①
- 第10回 認知症のある高齢者の看護②
- 第11回 パーキンソン病
- 第12回 貧血・浮腫・電解質異常
- 第13回 高齢者のリハビリテーション・行動制限
- 第14回 高齢者にとっての診察・検査・入院・退院
- 第15回 高齢者看護実習の基本

6. 授業形式

講義およびグループワーク

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

筆記試験 8割、小テスト 2割

9. 教科書

- ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 (メディカ出版)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

高齢者の主要な疾患や障害について学びながら、対象に必要な看護について一緒に考えていきたい  
と思います。

# 成人・老年看護学実習

## さまざまな看護を知る実習 1 (40)

<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急性期における看護の実際を見学し、生活の再構築への支援について考えることができる</li> <li>慢性期における看護の実際を見学し、生活につながる看護について考えることができる</li> <li>ターミナルケアにおける看護の実際を見学し、人生の最後の生活を看護者としてどう支援できるのかを考えることができる</li> <li>今までの実習での学びをふまえ、それぞれの看護の役割を考えることができる</li> </ul>
<b>内容</b>	<p>急性期：救急外来・ICU・手術室などを見学し、患者さんの突然の変化（身体的、精神的、環境、生活）に対し、どのようなサポートや看護をされているのかを知る。また、生活の再構築への支援について考える</p> <p>慢性期：透析室・糖尿病外来・化学療法室などを見学し、入院患者だけでなく、外来通院しながら、治療と生活をどの様に折り合いをつけながら生活されているのかを知る。また、看護としてどの様にサポートされているかを学び、生活につながる看護について考える</p> <p>ターミナル期：緩和ケア病棟を見学し、終末期看護の実際を学ぶ。終末期の患者の苦痛や不安（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）に対してどの様に関わっているのかを知る。人生の最後の生活を看護としてどの様に支えることができるかについて考える</p>

## 成人・老年看護学実習 I 2 (80)

<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受持ち患者の問題を考え、必要な援助を行う</li> <li>健康段階、発達段階をふまえた援助を考えることができる</li> <li>主体的に学習する能力を養うことができる</li> </ul>
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人期・老年期の特徴を理解する</li> <li>受持ち患者の発達段階、各健康段階を理解する</li> <li>発達段階、健康段階に必要な援助を考える</li> <li>受持ち患者の生活習慣を理解し、健康の保持・増進を目指す看護を考える</li> <li>患者の今の問題点を解決するための援助を考える</li> <li>考えた援助を実施・評価・修正する</li> </ul>

## 成人・老年看護学実習 II 2 (80)

<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人・老年看護学実習 I からの課題を理解し実習に臨むことができる</li> <li>健康段階、発達段階をふまえ看護問題を抽出できる</li> <li>問題を解決するための計画を立案し、実施することができる</li> <li>実施したことを看護の視点で評価・修正ができる</li> <li>疾患が患者の生活に及ぼす影響について考えることができる</li> <li>医療チームの一員であることが自覚できる</li> </ul>
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の発達段階、健康段階に適合した問題を考える</li> <li>看護問題を解決するための看護計画を立案する</li> <li>看護計画を実行し評価することで、患者にあった計画に近づける</li> <li>患者の生活習慣を理解し、健康の保持・増進を目指した援助を行う</li> <li>疾患が患者の生活にどのように影響するか考える</li> <li>医療チームの一員としての自覚を持つ</li> </ul>

# 小児看護学

目的	小児各期の成長・発達の特徴と、その課題を理解すると共に、様々な健康状態にある小児とその家族に対する看護の必要性と基本的な知識・技術・態度を学ぶ
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象を理解することができる</li> <li>2. 小児各期の成長・発達の特徴と、その課題を理解することができる</li> <li>3. 小児の成長・発達を理解し、健康な日常生活を送るために必要な援助「日常生活の自立と世話」を理解することができる</li> <li>4. 小児を取り巻く環境と、その意義について理解し、小児の成長発達段階に及ぼす影響を理解することができる</li> <li>5. 小児看護の役割とは何かを理解することができる</li> <li>6. 小児の保健医療の動向、健康の諸問題を理解することができる</li> <li>7. 小児の成長・発達に応じた健康の保持・増進を目指した看護を理解することができる</li> <li>8. 小児が罹りやすい疾患を理解し、起こりやすい症状、検査、治療を理解し、看護に活かすことができる</li> <li>9. 小児看護を実践するために必要な看護技術を学ぶことができる</li> <li>10. 様々な健康状態に応じた小児とその家族に必要な看護を学ぶことができる</li> <li>11. 小児を支える社会や、サポートシステムについて理解することができる</li> <li>12. 健康障害がある小児に対して、看護を実践することができる</li> </ol>

## 1. 授業科目 小児看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目的** 子どもの成長・発達や養育環境、および子どもの発達や健康をサポートする看護の役割機能を学び、小児看護の理念を育む

**目標**

1. 小児各期の成長・発達の特徴を理解することができる
2. 小児を取り巻く環境とその影響を理解することができる
3. 小児保健の動向と現代社会の課題から法律・政策を理解することができる
4. 小児の基本的生活習慣の確立や成長発達を促す援助を理解することができる
5. 発達段階による小児とその家族への支援を理解することができる

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 小児の特徴と理念／小児と家族の諸統計
- 第2回 子どもの成長・発達(成長発達の評価)
- 第3回 子どもの成長・発達(知的・情緒・社会機能)
- 第4回 新生児期にある子どもの特徴
- 第5回 乳児期にある子どもの特徴
- 第6回 幼児期にある子どもの特徴
- 第7回 学童期にある子どもの特徴
- 第8回 思春期・青年期にある子どもの特徴
- 第9回 各期における養育および看護(日常生活の世話)
- 第10回 各期における養育および看護(感染防止・遊びと学習)
- 第11回 各期における養育および看護(事故防止・育児支援・健康教育)
- 第12回 子どものアセスメント(演習)
- 第13回 家族の特徴とアセスメント
- 第14回 子どもと家族を取り巻く社会
- 第15回 まとめ(事例検討)

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義形式、実習室利用、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint) DVD

### 8. 評価方法

筆記試験7割、小テスト1割、課題2割

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論/小児臨床看護学総論(医学書院)  
病気がみえる vol.15 小児科(メディックメディア)

### 10. 参考文献

講義で提示

### 11. 学生へのメッセージ

小児看護は小児各期の成長発達を踏まえた子どもへのかかわり、そして子どもとともに成長していく家族をも対象としたかかわりが求められます。普段から様々な年齢の子どもたちにかかわる機会を意図的に作り、子どもたちの様子をよく観察してみましょう。また、小児に関する書籍、新聞、テレビ等を通して、小児と小児を取り巻く社会の現状に関心を持ちましょう。小児期は誰もが通ってきた道です。自分の経験も踏まえて子どもの成長発達の不思議、奥深さを一緒に楽しく学んでいきましょう。

## 1. 授業科目 小児看護学援助論 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標 1. 小児の疾患の特徴を理解することができる  
2. 小児の主な症状、検査、治療を理解することができる

### 5. 授業内容

[\* 1回は1コマ (90分) の授業です]

- 第1回 小児の生理学的特徴  
先天性疾患について (染色体異常[ダウン症候群]、先天性代謝異常 等)
- 第2回 新生児・低出生体重児の疾患について  
(呼吸窮迫症候群、壊死性腸炎、未熟児網膜症 等)
- 第3回 内分泌・代謝性疾患について (I型糖尿病 等)
- 第4回 免疫・アレルギー性疾患について  
(若年性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、気管支喘息 等)
- 第5回 感染症について (麻疹、風疹、細菌性感染症、ウイルス性感染症 等)
- 第6回 呼吸器疾患について (クループ症候群 肺炎 等)
- 第7回 循環器疾患について  
(先天性心疾患…ファロー四徴症、ボタロー管開存症等、川崎病、乳幼児突然死症候群 等)
- 第8回 消化器疾患について  
(唇裂・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症 等)
- 第9回 血液・造血器疾患について (急性リンパ性白血病、特発性血小板減少性紫斑病 等)  
悪性新生物について (小児に多い悪性新生物、神経芽腫 等)
- 第10回 腎・泌尿器疾患について (ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 等)
- 第11回 神経疾患について (てんかん、熱性痙攣、脳性麻痺、二分脊椎症 等)
- 第12回 運動器疾患について (側弯曲症、先天性股関節脱臼 等)  
緊急時の対応 (虐待について、熱傷 等)
- 第13・14回 子どもの精神疾患について (ADHD・ASD 等)
- 第15回 障害を持ちながら地域で生活する子どもの実際・制度

### 6. 授業形式

講義形式

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論/小児臨床看護総論 (医学書院)  
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2)小児臨床看護各論 (医学書院)  
病気がみえる vol.15 小児科 (メディックメディア)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

子どもを知り、病気を知り、しっかりとした知識を習得し、子どもたち、そしてご家族に安心を与えられるように、がんばっていきましょう。

## 1. 授業科目 小児看護学援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標
1. 健康障害がある小児とその家族の看護を理解することができる
  2. 外来受診や入院を必要とする小児とその家族の看護を理解することができる
  3. 小児に多い症状に応じた看護を理解することができる
  4. 検査・処置を受ける小児とその家族の看護を理解することができる
  5. 急性期にある新生児の病態を学び、NICUの役割を知る
  6. 障害がありながら地域で生活する子どもと家族への看護・支援を理解できる

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 病気・障害をもつ子どもと家族の看護
- 第2回 子どもの状況に特徴づけられる看護
- 第3回 子どもにおける疾病の経過と看護
- 第4回 症状を示す子どもの看護(不機嫌・啼泣・痛み・発熱・悪心嘔吐・下痢)
- 第5回 症状を示す子どもの看護(脱水・けいれん・意識障害)
- 第6回 検査・処置を受ける子どもの看護(総論/経管栄養・呼吸症状の緩和)
- 第7回 検査・処置を受ける子どもの看護(与薬・輸液管理)
- 第8回 検査・処置を受ける子どもの看護(検体採取)
- 第9回 検査・処置を受ける子どもの看護(救命処置/事故と外傷)
- 第10回 新生児の看護(未熟児の看護とNICU)
- 第11回 看護事例による看護展開(情報収集・アセスメント・看護問題の明確化)
- 第12回 事例による看護展開(看護計画立案)
- 第13回 事例による看護展開(看護の実施・評価)
- 第14回 重症心身障害児の看護
- 第15回 障害がありながら地域で生活する子どもの実際・支援(医療的ケア児の対応・看護)

### 6. 授業形式

講義形式 実習室利用 技術演習 グループワーク ロールプレイ

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint) ビデオ DVD

### 8. 評価方法

筆記試験：8割 課題：2割

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論/小児臨床看護総論 (医学書院)  
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 (医学書院)  
病気がみえる vol.15 小児科 (メディックメディア)

### 10. 参考文献

看護視察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ (中央法規出版)  
看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 専門Ⅱ小児看護①② (メディックメディア)  
新生児の症状・所見マスターブック (メディカ出版)  
写真でわかる小児看護技術アドバンス (インターメディカ)

### 11. 学生へのメッセージ

小児看護学概論で学んだ小児各期の成長発達をおさえた上で、疾病・障害をもつ小児に対しての発達段階に応じた看護とはどのようなものか、疾病や入院が小児や家族に与える影響について学んでいきましょう。

小児看護の知識は、自分が親になった時にも生かせる知識です。自分の子どもが病気や怪我をした時にも安心してかかわれるようしっかり知識や技術を身につけましょう。

子どもの素直さ、かわいらしさ、病気と頑張っていて闘っている姿、その子供を取り巻く環境など臨床での体験を伝え、小児看護に興味を持ってもらえればと思います。

## 小児看護学実習 2(80)

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児の成長・発達の特徴と、その課題を理解し、より良い成長・発達を遂げられるための援助方法を学ぶことができる</li> <li>・ 障害の有無にかかわらず、様々な健康状態にある対象の特徴を理解し、看護を実践する能力を養うことができる</li> <li>・ 障害の有無にかかわらず、様々な健康状態にある対象に必要な看護技術を理解することができる</li> <li>・ 「子ども理解の視点」について考えることができる</li> </ul>
<p>内容</p>	<p>&lt;保育園・こども園&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子ども理解の視点」について考えることができる</li> <li>・ 発達段階の特徴と課題・環境要因について理解することができる</li> <li>・ 発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる</li> <li>・ 小児にとっての遊びの重要性を理解したかかわり、コミュニケーションをとることができる</li> <li>・ 基本的な生活習慣を獲得するための保育・支援の重要性を理解できる</li> <li>・ 発達段階における健康教育、安全指導の実際を理解することができる</li> <li>・ 保育現場と家族との関わり、連携について理解することができる</li> </ul> <p>&lt;施設・病院・養護学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子ども理解の視点」について考えることができる</li> <li>・ 対象の特徴・成長・発達・病態を理解することができる</li> <li>・ 対象の発達段階に応じた援助・支援を考え、実施できる</li> <li>・ 対象の発達段階・健康段階に応じた安全・安楽とは何かを考え援助することができる</li> <li>・ 家族の思いに寄り添い対象を尊重した関りができる</li> <li>・ 対象の発達段階に応じたプレパレーション・ディストラクションを行いながら基本技術・検査・処置の援助を実施することができる</li> <li>・ 発達障害・健康障害が対象の成長・発達に与える影響と、家族に与える影響について、理解することができる</li> <li>・ 対象を取り巻く医療、教育、福祉、の連携・継続支援の必要性を理解することができる</li> <li>・ 多職種連携の必要性を理解しその実際を知る</li> </ul>

# 母性看護学

目的	人間の生涯を通しての母性の概念を理解し、女性のライフサイクルにおける健康問題や、妊娠・分娩・産褥期にある対象の看護を学び、基礎的な知識、技術・態度を養う
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 母性看護の意義と役割について理解する</li><li>2. 新しい生命の誕生や生と生殖に関する倫理観について考える</li><li>3. 周産期の看護について理解し、健康生活を援助するための基礎的知識と技術、方法を学ぶ</li><li>4. 母性の健康を守るための母子保健医療福祉の現状を知り、母性看護の役割について考える</li></ol>

## 1. 授業科目 母性看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1単位 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目的** 母性看護学の概要と女性の各ライフステージにおける健康問題とその看護を理解する
- 目標**
1. 母性および父性の役割と社会との関連性が理解できる
  2. 女性のライフサイクルにおける健康問題を理解し、健康の維持・増進に向けた法律・制度が理解できる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 母性看護の基盤となる概念
- 第2回 リプロダクティブ・ヘルスに関する概念、女性や母子のケアに関する概念
- 第3回 母性看護の対象に取り巻く社会の変遷と現状
- 第4回 母性看護に関わる指標とその推移、母性看護に関わる法律
- 第5回 海外の母子保健 在留外国人の女性について、母性看護に関連した倫理
- 第6回 思春期女性の健康と看護（第2次性徴、ホルモン機構、心理的離乳）
- 第7回 思春期女性の健康と看護（性感染症と予防）
- 第8回 思春期女性の健康と看護（人工妊娠中絶、性教育、性暴力）
- 第9回 成熟期女性の健康と看護、家族計画
- 第10回 成熟期女性の健康と看護
- 第11回 成熟期女性の健康と看護
- 第12回 成熟期女性の健康と看護
- 第13回 更年期・老年期女性の健康と看護
- 第14回 更年期・老年期女性の健康と看護
- 第15回 児童虐待、育児不安

### 6. 授業形式

講義

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン（PowerPoint）

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論（医学書院）

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

女性のライフサイクル各期における健康と健康課題について学び、母性とは何か、一緒に考えていきましょう。母性看護に興味や関心を持ってもらえるとうれしいです。

1. 授業科目 母性看護学援助論 I

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

目的 母性看護学における周産期の正常と異常について学ぶ

目標

1. 周産期における正常経過と異常を理解する
2. 人間の性と生殖に基づく生殖医療を理解する
3. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常についての知識と看護に結びつけるアセスメント能力を獲得する
4. 妊娠・分娩・産褥・新生児について正常とタイアップしながら理解する。

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 月経周期の調節機構・妊娠の成立
- 第2回 正常妊娠と妊娠期の身体的・心理・社会的特性
- 第3回 正常妊娠と妊娠期の身体的・心理・社会的特性
- 第4回 ハイリスク妊娠の概念及び妊娠期に注意すべきこと
- 第5回 ハイリスク妊娠の概念及び妊娠期に注意すべきこと
- 第6回 正常な分娩経過
- 第7回 正常な分娩経過
- 第8回 異常な分娩経過、ハイリスク分娩
- 第9回 産褥期の身体的変化と特徴(退行性変化・進行性変化)
- 第10回 産褥期の心理・社会的変化と特徴
- 第11回 産褥期の疾患と正常からの逸脱
- 第12回 新生児の胎外生活への適応
- 第13回 新生児の胎外生活への適応
- 第14回 生前診断、不妊症と不妊治療
- 第15回 まとめ

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2)母性看護学各論(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(9)女性生殖器(医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

女性の一生はとてもダイナミックです。特に変化の大きなこの時期について私自身の経験や具体的な事例も授業の中で伝えられたらと思います。一緒に楽しく学びましょう。

1. 授業科目 母性看護学援助論Ⅱ

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標
1. 周産期にある母子の生理と看護を理解することができる
  2. 周産期にある母子の異常と看護を理解することができる
  3. 育児技術獲得への看護を理解することができる
  4. 周産期にある母子の看護の事例を基に、看護過程の展開を理解することができる

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 妊婦の健康生活とアセスメント
  - 第2回 妊婦と家族への看護
  - 第3回 妊娠期の健康問題に対する看護
  - 第4回 妊娠期のケアに必要な技術
  - 第5回 産婦の健康に関するアセスメント
  - 第6回 産婦と家族への看護
  - 第7回 分娩期の健康問題に対する看護
  - 第8回 褥婦と家族への看護
  - 第9回 産褥期の健康問題に対する看護
  - 第10回 褥婦の健康と生活のアセスメント
  - 第11回 早期新生児とその家族への看護
  - 第12回 早期新生児の健康問題への看護
  - 第13回 早期新生児のアセスメント
  - 第14回 新生児の育児技術、妊婦体験(演習)
  - 第15回 新生児の育児技術、妊婦体験(演習)
- ※演習は必ず出席すること

到達度Ⅰ

到達度Ⅰ

6. 授業形式

講義 グループワーク 演習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint)、講義内容によりDVD使用

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2)母性看護学各論(医学書院)  
ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)母性看護技術(メディカ出版)

10. 参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論(医学書院)

11. 学生へのメッセージ

新たに家族を迎えるということ、人を産み育てるということの意味を考え直してください。

## 母性看護学実習 2(80)

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の妊娠経過に応じた看護を考えることができる</li> <li>・対象の分娩経過に応じた看護を考え実施することができる</li> <li>・対象の産褥経過に応じた看護を考え実施することができる</li> <li>・新生児の胎外生活適応過程を促進する看護を実施することができる</li> <li>・周産期にある対象への看護の役割について考えることができる</li> <li>・生命の尊厳について考える事ができる</li> <li>・看護職者としての態度を身につけることができる</li> </ul>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、助産師に同行し妊婦の診察介助・保健指導の見学を行う</li> <li>・妊婦の許可が得られれば指導者とともに触診、計測診を実施する</li> <li>・観察・情報収集した内容より母体の妊娠経過と胎児の発育・健康状態について正常からの逸脱と妊婦の心理・社会的変化についてアセスメントする</li> <li>・妊婦健康診査の必要性や母子健康手帳の活用方法について知る</li> <li>・助産師に同行し産婦の看護の見学（実施）、分娩の見学を行う</li> <li>・出生直後の新生児の観察・処置を見学し胎外生活への適応を促進するための援助の必要性について考える</li> <li>・褥婦と新生児を受け持ち、母と児に必要な看護計画を立案し実施する</li> <li>・妊娠・分娩期の経過、褥婦の観察やコミュニケーションで得られた情報から産褥経過のアセスメントをする</li> <li>・褥婦の観察やコミュニケーションを通し褥婦の身体的・心理・社会的適応状態を理解する</li> <li>・褥婦の育児行動の観察、指導者の援助を見学し母親役割獲得促進の援助について考える</li> <li>・退院後の生活や育児についての保健指導を見学し家庭生活・社会生活への適応促進の援助について考える</li> <li>・新生児の生理的变化を判断するために必要な観察内容を理解する</li> <li>・妊娠・分娩経過、新生児の観察で得られた情報から新生児の生理的变化のアセスメントを行う</li> </ul>

## 精神看護学

目的	精神看護の対象を理解し、精神に障害をもつ患者及び患者の家族に対する援助を実践するために必要な知識と技術を学ぶ
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 精神医療の歴史から精神保健医療の動向について理解し、これからの精神医療について考えることができる</li><li>2. 人の心の発達と健康との関連、及び心の健康を維持する重要性について学ぶ</li><li>3. 精神に障害をもつ患者とその家族に対する理解を深め、援助方法を学ぶ</li><li>4. 精神に障害をもつ患者の社会復帰は、地域社会と結びついていることを理解し、保健、医療、福祉との関連について学ぶ</li></ol>

## 1. 授業科目 **精神看護学概論**

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目的** 精神に課題や問題を抱える人を理解し、看護についての知識や関係構築のための技術などを学ぶ

**目標** こころの発達を理解し、精神に問題や障害がある人の理解を深め、看護の目的や役割を理解する。患者－看護師関係のあり方を理解し、関係構築のための関わりをイメージすることができる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 こころのケア概論・精神看護学で何を学ぶのか

第2回 精神に問題や課題のある人の理解

第3回 こころの発達と機能①

第4回 こころの発達と機能②

第5回 こころの発達と機能③

第6回 患者－看護師関係の理解①

第7回 患者－看護師関係の理解②

第8回 患者家族を理解する①

第9回 患者家族を理解する②

第10回 集団と看護①

第11回 集団と看護②

第12回 社会（文化）と精神障害①

第13回 社会（文化）と精神障害②

第14回 精神障害と法制度①

第15回 精神障害と法制度②

### 6. 授業形式

講義、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パワーポイント、DVD ほか

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2)精神看護の展開 (医学書院)

系統看護学講座 別巻 精神保健福祉(医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

「精神障害に拘らず、看護が会おう地域で暮らす人や医療機関で治療・看護を受ける誰もが抱えている「こころの課題・問題」について理解を深め、その人らしさに寄り添った看護実践を展開できるためのエッセンスが理解できるような講義を目指したいと思っています。

1. 授業科目 **精神看護学援助論 I**

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 後期 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標
1. 精神に障害のある人の社会的・歴史的意味を理解する。
  2. 精神保健と医療の現状を理解することができる。
  3. 精神障害について理解する。
  4. 支援について理解できる。
  5. 精神医学的症状、徴候の聞き取りと把握。患者背景、環境の適切な把握ができる。
  6. 精神医学的症状を分類判別し、精神医学的患者評価ができる。
  7. 精神障害の疾患・症状・問題の特徴及び治療法を理解できる。

5. 授業内容 〔\* 1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 精神保健の考え方
- 第2回 精神疾患のあらわれ方①
- 第3回 精神疾患のあらわれ方①
- 第4回 精神科での治療  
(精神療法、薬物療法、電気けいれん療法、環境・社会療法)
- 第5回 社会のなかの精神障害
- 第6回 統合失調症、スペクトラム障害及びその他の精神病性障害群①
- 第7回 統合失調症、スペクトラム障害及びその他の精神病性障害群②
- 第8回 抗うつ障害群、双極性障害群及び関連障害群①
- 第9回 抗うつ障害群、双極性障害群及び関連障害群②
- 第10回 神経認知障害群①
- 第11回 神経認知障害群②
- 第12回 不安症群、強迫症及び関連症群治
- 第13回 食行動障害及び摂食障害群
- 第14回 パーソナリティ障害群
- 第15回 睡眠-覚醒障害群、せん妄

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

パソコン

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

精神医学は、内科や外科とは異なり、身体的アプローチと精神心理的アプローチの二つを学ぶ必要があります。患者さんに関わり、寄り添うことで、症状や行動として表現される徴候や変化を捉え、決して数値化できないという困難をこえて広がる世界は、皆さんにとって新しい刺激になると思います。精神医学の面白さを皆さんに伝えたいと思います。

## 1. 授業科目 精神看護学援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：2 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

- 目標
1. 回復を支援するための看護について理解できる
  2. 患者の安全をまもるためのリスクマネジメントについて理解できる
  3. 精神科における看護の実際について理解できる
  4. 治療的コミュニケーション技術を理解し、それらを効果的に活用できる
  5. プロセスレコードを理解できる
  6. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解ができる
  7. 精神に障害のある患者への個別的な看護を考えることができる

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 回復を支援するリカバリープログラム
  - 第2回 安全を守る
  - 第3回 統合失調症の看護
  - 第4回 気分障害の看護
  - 第5回 器質性精神疾患の看護
  - 第6回 不安障害、摂食障害、人格障害の看護
  - 第7回 急性期、慢性期の看護
  - 第8回 回復期、社会復帰の看護
  - 第9回 治療的コミュニケーションを理解する
  - 第10回 プロセスレコードを理解する
  - 第11回 プロセスレコードの演習と検討
  - 第12回 事例を用いて患者に必要な看護を考える①(精神看護の視点と考え方)
  - 第13回 事例を用いて患者に必要な看護を考える②(事例紹介・個人ワーク)
  - 第14回 事例を用いて患者に必要な看護を考える③(個人・グループワーク)
  - 第15回 事例を用いて患者に必要な看護を考える④(グループワーク・発表)
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義、個人・グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験 グループワークレポート、授業への取り組み

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2)精神看護の展開(医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

精神科看護は全ての看護の基本となる、コミュニケーション・観察を学ぶ領域になります。人と人との関係がうまくいかないことが多いこの現代ですが、一緒に対人関係スキルを学び、看護師として対象と、どう向き合う事が必要か考えるきっかけになればと思います。

# 精神看護学実習

## 精神看護学実習 2 (80)

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障害のある患者の理解を深め、患者－看護師関係を通して看護者の関わり方を学ぶ</li> <li>・地域へ帰る患者の支援の実際について知り、地域で社会生活を継続するために、看護師がどのような役割を果たしているのか考えることができる</li> </ul>
<p>内容</p>	<p>&lt;病棟実習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障害のある患者の理解を深めることができる</li> <li>・共感的態度を示し患者を受け入れることができる</li> <li>・日常生活の自立状況を把握し必要な援助を実践する</li> <li>・精神科看護における看護師の役割を理解する</li> <li>・自己の内面に気づき自己洞察する</li> </ul> <p>&lt;在宅支援・社会復帰関連施設実習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院に向けた支援の実際が理解できる</li> <li>・退院後の生活環境について理解できる</li> <li>・精神に障害のある患者におこなわれる就業支援事業について理解できる</li> </ul>

## 地域・在宅看護論

<p>目的</p>	<p>地域の特徴とその地域で暮らす人々や生活を理解する。また、暮らしを支える地域包括支援システムの構築の重要性とさまざまな対策を理解し、多職種連携ならびにケアチームにおける看護職の役割や機能を理解する</p>
<p>目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域と地域で生活する人々の暮らしや環境を理解する</li> <li>2. 地域で生活する人々が自分らしい生活を送り続けるために、地域包括ケアシステムの重要性を理解する</li> <li>3. 地域・在宅看護の対象とその家族を理解し、生活の場における支援の必要性や看護職の役割を理解する</li> <li>4. 地域で暮らす在宅療養者を支えるための制度とその活用方法、様々な社会資源の特徴や地域包括支援システム構築の必要性を理解する</li> <li>5. 在宅療養者の対象に合わせた看護過程の展開方法や看護の実際を理解する</li> <li>6. 多職種連携とチームで協働する必要性や、チームにおける看護職の役割を理解する</li> <li>7. 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解する</li> </ol>

1. 授業科目 **地域・在宅看護概論**

2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

1. 地域・在宅看護の歴史や社会的背景を理解することができる
2. 地域・在宅看護の役割や機能、看護職のありかたを理解することができる
3. 在宅療養者と家族への支援の方法を理解することができる
4. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割や連携の方法を理解することができる
5. 地域療養を支える制度やその活用方法を理解することができる
6. 在宅看護や訪問看護の特徴を理解することができる
7. 在宅看護における危機管理の特徴を理解することができる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 1. 地域看護  
1. 地域看護と在宅看護
- 第2回 3. 在宅看護
- 第3回 4. 地域・在宅看護の対象者
- 第4回 2. 在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件
- 第5回 3. 在宅療養の場における家族のとらえ方
- 第6回 5. 在宅療養を支える訪問看護
- 第7回 3. 事例：訪問看護ステーションの開設
- 第8回 7. 地域療養を支える法・制度
- 第9回 4. 医療保険制度
- 第10回 5. 介護保険制度
- 第11回 6. 高齢者施策
- 第11回 7. 障害者に関する法律
- 第11回 8. 難病法
- 第11回 9. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
- 第12回 10. 生活保護制度
- 第12回 11. 事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援
- 第13回 資料1. 地域・在宅看護を展開するための基本理念
- 第13回 5. 症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術（医療ケア）
- 第14回 6. 在宅看護における安全と健康危機管理
- 第15回 事例 まとめ

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

8. 評価方法

筆記試験、課題

9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版）1～13回  
②地域療養を支える技術（メディカ出版）13～15回

10. 参考文献

看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護（中央法規出版）

11. 学生へのメッセージ

地域・在宅看護の基礎となる概念や様々なシステムを理解し、地域・在宅看護の特徴を学んでいきましょう。

## 1. 授業科目 地域・在宅看護援助論 I

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 多様化する在宅看護を理解し、訪問看護師の役割を理解する

**目標** ・在宅における療養環境を理解し、療養者の生活に沿った看護を理解する  
・在宅看護の基礎知識を理解し、状況別・在宅看護援助のスキルを理解する  
・療養者の生活状況を理解し、個々の状況に配慮した看護援助を習得する

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 地域・在宅で療養する高齢者及び療養環境の特徴
- 第2回 地域・在宅における生活ケア(食事・排泄・活動・休息)
- 第3回 在宅における医療ケアの意義と感染対策・フィジカルアセスメント
- 第4回 在宅における呼吸ケア(排痰・吸引法)、在宅酸素療法
- 第5回 在宅での気管カニューレ管理、在宅人口呼吸療法
- 第6回 呼吸ケア(排痰・吸引)、気管カニューレ管理の手技を習得する【演習】
- 第7回 在宅における栄養管理(経管栄養法・中心静脈栄養法)
- 第8回 在宅における経管栄養注入、管理の手技を習得する【演習】
- 第9回 在宅におけるスキンケア・フットケア
- 第10回 在宅でのスキンケア・フットケアの手技を習得する【演習】
- 第11回 在宅における排尿ケア(膀胱留置カテーテルの管理)
- 第12回 在宅における排泄ケア(ストーマ・排便コントロール)
- 第13回 在宅における褥瘡ケア(ポジショニング・ドレッシング材)
- 第14回 在宅での褥瘡ケア、ポジショニングの手技を習得する【演習】
- 第15回 在宅における薬物療法(服薬管理・輸液管理・インスリン自己注射)

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(動画)

## 8. 評価方法

筆記試験8割 演習後のミニレポート2割

## 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)地域療養を支えるケア(メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2)地域療養を支える技術(メディカ出版)

## 10. 参考文献

図書 よくわかる在宅看護(GAKKEN)

## 11. 学生へのメッセージ

多様な在宅療養者への看護ケアの基本と技術の実際について、関心をもって、楽しく学びます。  
「病気や障害をもちながら地域、在宅で暮らす人と家族を支える看護とは」について探求していきましょう。

## 1. 授業科目 地域・在宅看護援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 地域包括ケアシステムを理解し在宅療養を支える在宅看護の特徴と役割を学ぶことができる
2. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の必要性を理解することができる
3. 在宅療養者の疾患や障害の状態から予測・予防をふまえた支援の必要性を学ぶことができる
4. 在宅看護における安全と健康危機管理の方法を理解することができる
5. 在宅療養者の生活をふまえた、訪問看護における看護過程の方法を理解することができる
6. 在宅療養者とその家族の健康危機や災害対策とは何かを理解することができる

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 3-4-2～3-4-4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携  
3-5. 事例：地域の多職種連携が連携して行う自宅退院への支援
- 第2回 6. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント
- 第3回 8. 在宅療養を支える健康危機・災害対策
- 第4回 9. 地域・在宅看護の動向と今後の発展
- 第5回 1. 訪問看護技術
- 第6回 2-1. 疾患等に応じた看護
- 第7回 2-2. 病期に応じた在宅療養者への看護
- 第8回 4-1～4-2. 日常生活を支える看護技術 食生活・排泄
- 第9回 4-3～4-6. 日常生活を支える看護技術 清潔～呼吸
- 第10回 6-2. 日常生活における安全管理
- 第11回 7-6・7-10～7-12 事例で学ぶ在宅看護の技術
- 第12～15回 看護過程

### 6. 授業形式

講義・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)地域療養を支えるケア(メディカ出版)

### 10. 参考文献

看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護(中央法規出版)

### 11. 学生へのメッセージ

在宅看護は、地域で暮らす療養者と家族を対象に看護が展開されます。自立支援とは何か、その人らしい生活とは何かを考えながら、他職種と連携・協働するなかで、看護の方法や実際を学んでいきましょう。

**1. 授業科目** 地域における暮らしと環境**2. 担当者名****3. 配当年次等** 1年次 単位数：1 時間数：30**4. 学習目的・目標**

**目的** 地域における人々の暮らしを理解し、地域環境や暮らしを支える公的支援と生活への影響を学び、地域・在宅看護の必要性を考える

**目標**

1. 「暮らし」に関する地域の特徴を理解することができる
2. 住民の「暮らし」を理解することができる
3. 地域の特徴から住民の生活への影響を理解することができる
4. 地域と住民の特徴を理解し、住民の抱える問題を考えることができる

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回	地域・在宅での暮らし	
第2回	地域と生活と健康	1-1 地域と生活と健康
第3回		1-3-1 地域アセスメントと意義 1-3-2 地域アセスメントの活用
第4回		4-3 地域アセスメントの方法
第5回		4-4 地域を「みる」-実際の町を例に
第6回		ある町の様子をアセスメント
第7回		ある町の様子をアセスメント・発表
第8回	地域・在宅看護の背景	2-2-1-1~2-2-1-3 社会的背景と国民の価値観の変容
第9回		2-2-1-4~2-2-1-5 社会的背景と国民の価値観の変容 2-2-2 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題
第10, 11, 12回	暮らしに影響する環境を知る	大津市・高島市の地域を調べる
第13回	暮らしに影響する環境を知る	分析・まとめ
第14・15回	暮らしに影響する環境を知る	P.Pにて発表

**6. 授業形式**

講義、グループワーク

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン

**8. 評価方法**

試験、課題の取り組み・提出・発表

**9. 教科書**

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)在宅療養を支えるケア (メディカ出版)  
 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2)在宅療養を支える技術 (メディカ出版)

**10. 参考文献**

看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護 (中央法規出版)

**11. 学生へのメッセージ**

私たちが毎日過ごしている「地域」や「暮らし」について考え、「暮らしやすい地域」「生活」とはどのようなものであるか、地域や環境が人々の生活にどのような影響を与えているか学んでいきましょう。そして、何事も興味をもって取り組むこと、自己の考えを持ち発言することを心掛けましょう。

## 1. 授業科目 地域で生活する人と看護

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 地域包括ケアシステムを理解し、イメージすることができる
2. 地域の支援事業とその内容を理解することができる
3. 医療施設・介護施設・居宅介護サービス等の種類や内容を理解することができる
4. 療養の場の移行に伴う継続看護の重要性と看護の役割や連携を理解することができる
5. 生活の場での看護の方法を学ぶことができる

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 1年次のおさらい  
1-2. 地域包括ケアシステムと共生社会  
2-3. 地域看護の実践
- 第2回 3-4-5. 生活の場に応じた看護とサービス提供機関  
3-5. 事例：地域の多職種が連携して行う
- 第3回 6. 在宅看護における安全と健康危機管理 1. 在宅看護における危機管理
- 第4・5回 高島市・大津市の支援事業をグループごとに調べまとめる(地域のすべての住民)
- 第6回 地域の支援事業をPowerPointにて発表
- 第7・8回 施設の種類と機能をグループごとに調べまとめる(居宅・施設・地域密着型)
- 第9回 施設の種類と機能についてPowerPointにて発表
- 第10回 事例 1. 入院から退院時の状況を理解する 2. 訪問看護の役割と連携
- 第11回 3. ケアプランを考える
- 第12回 4. 各サービス・入退院時の報酬について理解する
- 第13回 3. 在宅療養生活を支える基本的な技術
- 第14回 生活の場でのアセスメント  
7-3. 被虐待が疑われる認知症高齢者
- 第15回 訪問時の基本マナー まとめ

### 6. 授業形式

講義・グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン・DVD

### 8. 評価方法

試験を中心に課題やグループ発表、レポート

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①在宅療養を支えるケア(メディカ出版)  
②地域療養を支える技術(メディカ出版)

### 10. 参考文献

看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護(中央法規出版)

### 11. 学生へのメッセージ

地域包括支援システムの理解を深め、在宅療養の場とサービスの特徴・機能、連携の必要性を理解し、看護の役割と重要性を学びましょう。

# 生活する人を知る実習 1(30)

<p>目標</p>	<p>1) 地域とその地域に住む人々を理解することができる</p> <p>(1) 地域の特徴を理解することができる</p> <p>(2) 地域に住む人々の特徴を理解することができる</p> <p>2) 地域・在宅看護の対象が、その人らしく生き生きと生活するために、どのような環境や支援が必要かを学ぶことができる</p> <p>(1) 様々な場所や環境で暮らす対象の生活を理解することができる</p> <p>(2) 生活する人が、その人らしく自立した生活をするために、人と人との関わりや結びつきの重要性、健康の関連性を理解することができる</p> <p>(3) 生活する人の環境、生活背景を知り、価値観や暮らしに対する思い、ニーズや問題について考えることができる</p> <p>(4) 地域と地域で生活する人々が、その人らしく生き生きと生活するために、公的な支援や看護の必要性、事前と生活と健康の関連について考えることができる</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治連合会や社会福祉協議会等の活動目的を理解し、「まちづくり協議会」の施設や地域の商店・団体を訪問し、趣味や健康活動、教育や労働等、生活されている場面を見学・参加する。</li> <li>・見学・参加したことから、地域や生活されている住民の特徴、健康で生き生きと生活するために何が必要かを考える</li> <li>・地域や施設にグループで訪問する。そこにおられる人々にインタビューを行い、住民の特徴や思いを調査する。住民の生活や健康についての認識、保健行動に対する知識や公的対策の満足度などを知り、住民のニーズや価値観・満足度を知る</li> <li>・企業や団体と生活する人とがどのような繋がりを持ち、どのように地域貢献をしているのかを学ぶ</li> <li>・自然の中に身を置き、自然と生活と健康の関連について考える</li> <li>・「生活する人と地域」について、学内でグループワークを行い、情報共有し学びを深める(グループごとに発表)。</li> </ul>

## 地域で生活する人と看護実習 2(60)

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康障害を持ちながら、地域で生活している人を理解することができる</li> <li>様々なサービスを利用しながら生活している利用者と家族を理解する</li> <li>地域包括支援システムが機能するなかで、在宅療養者がその人らしく生活するために必要なフォーマル・インフォーマルなサービスを理解する</li> <li>在宅療養者や多職種に対し、信頼関係を築くための関わり方について理解することができる</li> </ul>
<p>内容</p>	<p>〈地域包括支援センター〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特徴を踏まえて、地域包括支援センターの業務やその地域住民を支えるための地域支援事業の実際を見学・説明を受ける</li> </ul> <p>〈各施設・病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な施設の特徴や役割・機能を理解し、そこで活躍する各職種の役割や業務を見学する</li> <li>多職種間での看護師の役割や連携・調整方法の実際を見学する</li> <li>関わった利用者の情報収集を行い、保健・医療・福祉の連携等の実際を知る</li> <li>利用者の情報収集を行い、サービス利用するにあたっての経緯や思い、生活背景やニーズを知り、その方のQOLやその人らしい生活について考える</li> <li>利用者の健康状態・介護力等の環境に合わせた支援・援助の実際を見学する</li> <li>利用者スタッフの関わり合いの場面見学や、実際にコミュニケーションを行い、信頼関係を構築するための方法とはどのようなものかを考える</li> </ul>

## 地域・在宅看護論実習 2(80)

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で療養する対象とその家族を理解し、医療と生活を支える訪問看護の役割と支援の方法やチームケアの必要性を理解することができる</li> <li>・地域包括ケアシステムを理解し、地域療養を支えるために多職種・多機関連携の必要性と継続看護の重要性を理解することができる</li> </ul>
<p>内容</p>	<p>1日1～2名程度、在宅で療養する利用者宅を訪問看護師とともに訪問し、地域療養を支える訪問看護師の役割と対象に合わせた援助や支援の実際、在宅ケアチームとの連携・協働方法等を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性 <ul style="list-style-type: none"> <li>住民の生活環境・生活のニーズを知る</li> </ul> </li> <li>・訪問看護ステーションの役割と機能、訪問看護サービスの実際を見学する</li> <li>・利用者と家族に合わせた看護技術の方法と工夫を見学する</li> <li>・訪問リハビリや施設等の見学を行い、各サービスの役割や多職種連携について学ぶ</li> <li>・福祉用具の導入の実際と工夫を情報収集する</li> <li>・ケアマネジャーの役割と機能を学ぶために、質疑応答を行う</li> <li>・サービス担当者会議に参加し、利用者・家族の思いやニーズ、より良いケアプランの決定方法や多職種の役割と連携方法の実際を見学する</li> </ul>

## 発達段階と健康状態別看護

目的	健康状態別看護及び治療別看護の実践力を身につける
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学の知識を活用し、対象や様々な場面に応じた看護を理解する</li> <li>2. 各領域における薬物療法について、看護師の役割を理解する</li> <li>3. 手術を受ける患者の特徴と看護について理解する</li> <li>4. 各領域における周手術期の看護が理解できる</li> <li>5. 終末期にある患者や家族に対する看護師の役割やその看護について理解する</li> <li>6. 人生の最終段階に向かう家庭で、1つひとつ自分を失う苦しみをかかえながらも穏やかさを保つための看護について理解する</li> <li>7. 理論を用いて家族看護の視点や必要性を学ぶ</li> <li>8. 対象の発達段階や状態に応じた家族の理解、支援方法を理解する</li> <li>9. 対象とその家族のニーズを理解し、意思決定支援の必要性を理解する</li> <li>10. ヘルスプロモーションの考え方や活動方法について理解する</li> <li>11. ヘルスプロモーションにおける看護職の役割について学ぶ</li> <li>12. 課題に対し観察の視点を上げることができる</li> <li>13. 現象に対して客観的に観察することができる</li> <li>14. 観察を通して今起きていることを分析することができる</li> <li>15. 分析した結果から必要な援助を導き出すことができる</li> </ol>

## 1. 授業科目 問題解決思考の活用と実践 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 問題解決思考を養うために、目で見たと現状に対して疑問を持ち、自分の頭で考え実践方法を導き出すための方法を学ぶ

**目標** 課題に対し観察の視点を上げることができる  
現象に対して客観的に観察することができる  
観察を通して今起こっていることを分析することができる  
分析した結果から必要な援助を導き出すことができる

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 オリエンテーション【1例目】患者の状態提示・事前学習
- 第2回 事例の観察 事例の分析 この人ってどんな人？
- 第3回 問題の抽出 必要な看護を考える
- 第4回 援助方法の立案(文献を用いて方法を調べ学習する)
- 第5回 計画立案
- 第6回 援助の実践
- 第7回 評価・修正 振り返り
- 第8回 【2例目】患者の状態提示・事前学習
- 第9回 事例の観察 事例の分析 この人ってどんな人？
- 第10回 問題の抽出 必要な看護を考える
- 第11回 援助方法の立案(文献を用いて方法を調べ学習する)
- 第12回 計画立案
- 第13回 援助の実践
- 第14回 評価・修正 振り返り
- 第15回 まとめ

### 6. 授業形式

グループワーク 演習

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD

### 8. 評価方法

記録物・参加、取り組み状況

### 9. 教科書

未定

### 10. 参考文献

講義中紹介

### 11. 学生へのメッセージ

目の前の場面から、しっかりと根拠をもって必要な援助を考えられるようになってください。  
思い付きではなく、文献やテキストなどから援助方法を見つける習慣がつくといいと思います。

## 1. 授業科目 薬物療法と看護

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目標** 薬理学の知識を活用し、対象や様々な場面に応じた看護について学ぶ  
薬物療法における看護師の役割を実践的な事例を通して学ぶ

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回	薬物療法の基礎と実際	
第2回	循環動態に関わる薬剤の投与と調整	
第3回	栄養及び水分管理に関わる薬剤の投与と調整	
第4回	インスリン投与時の注意点	
第5回	化学療法における看護	
第6回	演習：経皮・外用薬使用時の看護	到達度Ⅰ
第7回	演習：経口薬使用時の看護	到達度Ⅰ
第8回	医療事故の起こしやすい薬剤	
第9回	演習：座薬使用時の看護	到達度Ⅱ
第10回	演習：座薬使用時の看護	到達度Ⅱ
第11回	小児と薬	
第12回	妊娠と薬	
第13回	高齢者と薬	
第14回	在宅における薬剤管理の工夫	
第15回	精神領域における薬	

※演習は必ず出席すること！

### 6. 授業形式

講義、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

### 8. 評価方法

筆記試験、レポート課題

### 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちを回復の促進(3) 薬理学 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)

病気がみえる vol.15 小児科 (メディックメディア)

### 10. 参考文献

講義中に紹介する

### 11. 学生へのメッセージ

看護師は与薬の実践者です。与薬に必要な知識と一緒に学びましょう。

## 1. 授業科目 各発達段階における手術と看護

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

目標 手術を受ける患者の特徴と看護について理解する  
各領域の周手術期看護（前・中・後）が理解できる

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 外科看護とは 手術前検査と看護
- 第2回 手術看護とは（手術室）
- 第3回 麻酔看護とは（気管内挿管の介助含む）
- 第4回 術後合併症と看護（術後出血、術後せん妄、呼吸器合併症、縫合不全、術後感染症等）
- 第5回 創の治癒過程
- 第6回 術後の回復を支援する看護
- 第7回 ドレーン類の挿入部の処置（演習） 研修1コマ使用
- 第8回 手術患者の地域・在宅への移行に向けた看護
- 第9回 同上
- 第10回 手術を受ける高齢者の看護
- 第11回 同上
- 第12回 手術を受ける小児の看護
- 第13回 同上
- 第14回 緊急帝王切開における看護
- 第15回 同上

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

- 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）
- 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）
- 系統看護学講座 母性看護学(2)母性看護学各論（医学書院）
- ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版）
- 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）
- 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2)小児看護学概論 小児臨床看護各論（医学書院）

### 10. 参考文献

講義中に紹介する

### 11. 学生へのメッセージ

手術に伴うリスク、回復のプロセスについて一緒に理解しましょう。

## 1. 授業科目 エンド・オブ・ライフ・ケア

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

- 目標**
- ・終末期にある患者や家族への看護について考えることができる
  - ・全人的ケアについて理解することができる
  - ・苦しみの中でも穏やかに過ごすための看護を考えることができる
  - ・終末期患者の身体症状緩和に必要なアセスメントツールや薬物療法・ケアを理解し、看護師に求められる役割を学ぶ
  - ・終末期患者の病によるストレスや精神的な苦痛を理解し、その対処と支援について学ぶ

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 緩和ケアの歴史
- 第2回 緩和ケアにおける倫理的課題
- 第3回 緩和ケアにおけるチームアプローチ (DVD 視聴)
- 第4回 緩和ケアにおけるコミュニケーション (DVD 視聴)
- 第5回 全人的ケアの実践①身体的ケア (疼痛・消化器症状・全身倦怠感・呼吸困難など)
- 第6回 全人的ケアの実践②精神・心理的ケア (病によるストレスへの対応とその支援など)
- 第7回 全人的ケアの実践③スピリチュアルケア

演習；精神的安寧を保つためのケア

到達度 I

- 第8回 ライフサイクルにおける緩和ケアの広がり：小児、思春期
- 第9回 ライフサイクルにおける緩和ケアの広がり：高齢者
- 第10回 非がん患者への緩和ケア
- 第11回 療養の場の広がり、住み慣れた地域での暮らしの支援
- 第12回 臨死期のケア
- 第13回 エンゼルケア
- 第14回 家族のケア (グリーフケア)
- 第15回 医療スタッフのケア

## 6. 授業形式

講義、DVD 視聴、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験及びレポートにより評価

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)

緩和ケア はじめの一步 (照林社)

## 10. 参考文献

講義中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

看護は手と目で護ること。知識だけでなく、ケアリングの姿勢の大切さを学んでほしい

**1. 授業科目** ファミリー・ケア

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. 理論を用いて家族看護の視点や必要性を学ぶ
  2. 対象とその家族の関係性を理解し、かかわっていく必要性を学ぶ
  3. 対象の発達段階や状態に応じた家族の理解、支援方法を学ぶ
  4. 対象とその家族のニーズを理解し、意思決定支援の必要性を学ぶ

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 なぜ家族看護を学ぶのか
- 第2回 家族の構造と機能
- 第3回 家族を理解するための理論と介入方法
- 第4回 急性期患者の家族看護
- 第5回 急性期患者の家族看護
- 第6回 小児期の家族看護
- 第7回 小児期の家族看護
- 第8回 精神疾患の家族看護
- 第9回 精神疾患の家族看護
- 第10回 高齢の患者の家族看護
- 第11回 高齢の患者の家族看護
- 第12回 周産期に関する家族看護
- 第13回 周産期に関する家族看護
- 第14回 地域・在宅における家族看護
- 第15回 地域・在宅における家族看護

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

系統看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)  
看護がみえる vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)

**10. 参考文献**

講義中に紹介

**11. 学生へのメッセージ**

**1. 授業科目**      ヘルスプロモーション

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等**    2年次      単位数：1      時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. ヘルスプロモーションの考え方や活動方法について学ぶ
  2. ヘルスプロモーションにおける看護職の役割について学ぶ

**5. 授業内容**      [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 ヘルスプロモーションの基本と健康政策
- 第2回 ヘルスプロモーションの場と看護
- 第3回 健康教育に必要な考え方・理論
- 第4回 健康行動に必要な理念
- 第5回 ライフサイクルにおける健康教育
- 第6回 健康教育の実践
- 第7回 健康教育の実践
- 第8回 生活習慣におけるヘルスプロモーション：食生活・運動・睡眠
- 第9回 生活習慣におけるヘルスプロモーション：排泄・清潔・歯口腔
- 第10回 小児のヘルスプロモーション
- 第11回 成人のヘルスプロモーション
- 第12回 高齢者のヘルスプロモーション
- 第13回 プレコンセプションケアについて
- 第14回 精神のヘルスプロモーション
- 第15回 地域のヘルスプロモーション

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション (メヂカルフレンド社)  
看護がみえる vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)

**10. 参考文献**

講義中に紹介

**11. 学生へのメッセージ**

## 看護の統合と実践

目的	組織の一員として看護に関わること、臨床に近い状況において、安全を意識しながらその場その時の状況に合わせた臨床判断能力を身につけ、時代の変化に伴い看護の領域が国際的な広がりを見せていることを理解し、災害時における看護活動に対応できる基礎的知識を身につける
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故の重大性や危険性を予測し、確実に予防する知識を養う</li><li>2. 思考と実践する力を身につけ、臨床判断能力を養う</li><li>3. 災害による社会の変化と課題ならびに看護の役割を理解し、看護活動に参加できる基礎的な知識、技術を身につける</li><li>4. 国・地域・民族など文化の違いにより、望むケアが異なること患者や住民を理解し、その文化に適したケアを提供できる基礎的知識を身につける</li></ol>

## 1. 授業科目 医療安全

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 医療安全についての基礎知識を習得し、事故防止について理解し取り組むことができる。

- 目標**
1. 医療安全の考え方を理解し、看護師として担う責任を理解できる
  2. 事故の発生要因を理解し、間違いを犯さない技術や自己モニタリング方法を学習する
  3. 安全文化について学び、チームの一員として自覚と責任をもつことの重要性を理解する
  4. 患者の権利や安全を守るための看護の方法を理解する

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 医療安全と医療事故防止の考え方を学ぶ
- 第2回 国内外における医療安全対策の動向について学ぶ
- 第3回 医療機器に関する事故防止について学ぶ
- 第4回 感染管理に関する事故防止について学ぶ
- 第5回 医療安全とコミュニケーション チームステップスについて学ぶ
- 第6回 薬剤に関する事故防止について学ぶ
- 第7回 看護業務に関する事故防止について学ぶ
- 第8回 リハビリテーションの役割と転倒転落防止について学ぶ
- 第9回 療養上の世話に関する事故防止について学ぶ
- 第10回 患者誤認に関する事故防止について学ぶ
- 第11回 在宅療養者に関する事故防止について学ぶ
- 第12回 自己分析方法について学ぶ
- 第13回 看護学生の実習と安全対策について学ぶ
- 第14回 KYTについて学ぶ(グループワーク)
- 第15回 まとめ

### 6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 (医学書院)

### 10. 参考文献

医療安全ワークブック 川村治子著 (医学書院)

医療における危険予知訓練マニュアル 医療 KYT 研究会著 (安井電子出版)

### 11. 学生へのメッセージ

医療の高度化・専門家に伴い、看護師が医療事故遭遇するリスクは高まっています。学生においても実習で患者・家族と関わる中でヒヤリとするような場面に遭遇する可能性は大いにあります。医療安全の基礎知識を学んだ上で実習に取り組むことが、患者やその家族の安全を守ることに繋がります。また、学生自身も安心して病院実習に取り組め利用にリスク対策について学んでください。

## 1. 授業科目 問題解決思考の活用と実践Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：2 時間数：45

### 4. 学習目標

- 目標**
1. 治療や検査、ケアにおける場面設定に対し演習を通して危険予知ができる。またディスカッション等で解決方法を考える事ができる
  2. 複数受け持ちや時間の切迫場面の事例を通して、優先順位や時間管理について学ぶ・下級生への指導を通して、説明力、指導力を身につける

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1・2回 オリエンテーション  
危険予知①【※①②③ともに考えられる危険とその対処方法を考える】
- 第3・4回 危険予知②
- 第5・6回 危険予知③
- 第7～10回 優先順位と時間管理 こんなときどうする？を考える
- 第11・12回 1年次の後輩への演習指導
- 第13・14回 複数の患者に対する事例を考える 情報の整理
- 第15・16回 関連図における全体像の把握
- 第17・18回 行動計画の立案と看護計画の立案
- 第19回 申し送りからの修正
- 第20・21回 課題に応じた実践
- 第22回 デブリーフィング
- 第23回 まとめ(45分)

### 6. 授業形式

講義・グループワーク・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

未定

### 8. 評価方法

提出物・実践場面・取り組み

### 9. 教科書

なし

### 10. 参考文献

講義中に紹介します

### 11. 学生へのメッセージ

問題解決思考の活用と実践Ⅰをふまえ、いま起こっている状況を把握するだけでなく、そこから予測されることを考えられる力を身につけてもらいたいと思います。時間軸の中でも広い視野を持って考えることができると、患者さんの安全・安楽をもっと提供できると思います。

## 1. 授業科目 国際看護と災害看護

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

### 目標

1. 国際看護の概念を理解する
2. 世界の健康問題を理解する
3. 文化が異なることによるケアの違いを理解する
4. 国際看護活動の展開について理解する
5. 災害看護：災害時に支援できる看護の基礎的な知識について、理解することができる

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 国際看護とは
- 第2回 世界の健康問題：人口問題、先進国と発展途上国の格差
- 第3回 世界の健康問題：疾病負担からみた優先問題、感染症他
- 第4回 ミレニアム開発目標と国際協力
- 第5回 プライマリ・ヘルスケア 国際看護の基本概念
- 第6回 異文化看護 在日外国人の看護
- 第7回 国際看護活動の展開
- 第8回 災害看護とは
- 第9回 トリアージとは (講義)
- 第10回 トリアージタグの書き方 (演習)
- 第11回 災害サイクルと救護活動 (講義)
- 第12回 災害サイクルと救護活動 (病院作り)
- 第13回 災害サイクルと救護活動 (演習)
- 第14回 災害活動の実際 (熊本地震、能登半島地震救護活動)
- 第15回 災害関連の法律・クラッシュシンドロームなど (災害時の特徴的な疾患)

## 6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint) DVD

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3)災害看護学・国際看護学 (医学書院)  
看護学概論 看護追求へのアプローチ 第5版 (医歯薬出版)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**災害看護** 災害はいつ起こるか解りません、どのような状況下で遭遇するか解らない災害に対し、意識を高め、災害時対応が出来るように、少しでも災害看護に興味を持ってもらえたらと思います。演習を交え、体験しながら学んで頂けたらと思います。

## 看護の統合実習 2(80)

目的	<p>統合分野の講義・実習で学んだ知識・技術・態度を臨床で活用できるための実践能力を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟の看護チームにおけるメンバー、リーダーの役割を通して看護の実際が理解できる。</li> <li>・複数患者の情報収集を行い、その日に実践する看護の内容と根拠がわかり、優先順位と時間管理について理解することができる</li> <li>・その日の看護実践を振り返り評価、修正について報告、相談することができる</li> <li>・卒業時に到達すべき看護技術を見学または実施することができる</li> <li>・病棟看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際や他部門との調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ</li> <li>・病棟における医療安全の実際を知ることができる</li> <li>・夜間における患者の状況や看護の実際が理解できる</li> <li>・外来看護の役割・機能が理解できる</li> </ul>
目標	<p>管理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟師長（課長）又は補佐（代行）と共に行動することで、病棟管理の実際、医療安全の実際、災害時の対応について学ぶ</li> </ul> <p>リーダー実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーと共に行動することでチームリーダーの役割の実際を見学し、チーム医療における業務の調整、看護実施に向けての指導調整、多職種や他部門との調整・連携について学ぶ</li> </ul> <p>夜間実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤看護師と共に行動することで夜間における看護の実際を見学し、夜間における看護の実際、患者の状況について学ぶ</li> </ul> <p>チームメンバー実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームメンバーについて援助を見学または指導下で一部実施することで、援助の実際、業務調整の方法や優先度の決め方を学ぶ</li> </ul> <p>複数受け持ち実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者2名を受け持つことで、看護上の問題を捉え必要な援助を理解し、看護計画に基づいた援助を実施する。その内容を通して、看護における優先順位や時間管理の重要性、チームの一員としての報告連絡相談、協働を学ぶ</li> </ul> <p>外来実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来看護師と共に行動することで外来看護の実際を見学し、外来患者の療養生活の理解を通して継続看護における看護連携の必要性を学ぶ</li> </ul>